ICOM

取扱説明書

COMMUNICATIONS RECEIVER

IC-R5

Icom Inc.

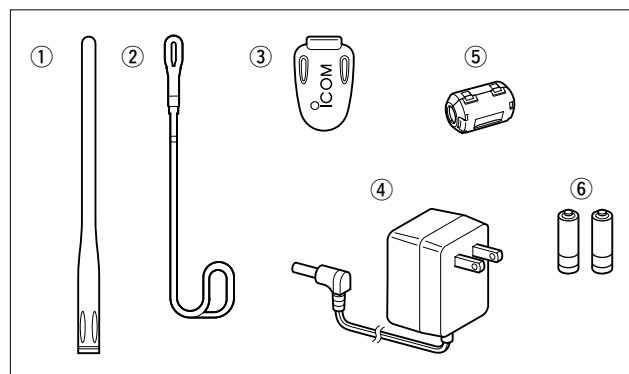
はじめに

このたびは、IC-R5をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

IC-R5は、0.150～1309.995MHzの広帯域をカバーする、超小型・軽量の受信機です。

ご使用の際は、この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いくださいますようお願い申し上げます。

お読みになったあとも、いつでも読めるように大切に保管してください。

付属品

①アンテナ……………………1
②ハンドストラップ…………1
③ベルトクリップ……………1
④BC-149……………………1
⑤フェライトコア(BC-149用)…1
⑥ニカド電池…………………2
● 取扱説明書
● 保証書
● 愛用者カード

目　次

安全上のご注意

安全にお使いいただくために、
必ずお読みください。

- ここに示した注意事項は、使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。
- お読みになったあとは、大切に保管してください。

⚠ 危険

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

- **引火性ガスの発生する場所では絶対に使用しないでください。**
  火災、爆発の原因になります。
- **電池のアルカリ液が目に入ったり、皮膚や衣服に付着したりしたときは、こすったり、触ったりしないでください。**
  失明、皮膚障害のおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流したあと、ただちに医師の治療を受けてください。
- **運転中は、本機の操作をしないでください。**
  交通事故の原因になります。
- **外部アンテナを使用しているときに、雷が鳴り出したら本機の電源を切り、外部アンテナを本機から外してください。**
  火災や感電、故障の原因になります。

⚠ 警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- **民間航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、これらの関連施設周辺では絶対に使用しないでください。**
  交通の安全や無線局の運用などに支障をきたす原因になります。運用が必要な場合は、使用する区域の管理者から許可が得られるまで電源を入れないでください。
- **電子機器の近く(特に医療機器のある病院内)では絶対に使用しないでください。**
  電波障害により電子機器が誤動作、故障する原因になりますので、電源を切ってください。
- **定格以外の電圧は使用しないでください。**
  火災、感電、故障の原因になります。
- **線材のような金属物を入れたり、水につけたりしないでください。**
  火災、感電、故障の原因になります。
- **大きな音量でヘッドホンやイヤホンなど使用しないでください。**
  大きな音を連続して聞くと、耳に障害を与える原因になります。
- **この製品は完全調整していますので、分解、改造しないでください。**
  火災、感電、故障の原因になります。
- **煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用しないでください。**
  そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。
  すぐに電源を切り、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。
- **使用済みの乾電池やニカド電池を火の中に入れないでください。**
  破裂して、火災や火傷の原因になります。

● 電池を交換するときは、すべての電池を同時に交換してください。
また、種類の異なる電池を混ぜて使用したり、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。

⚠ 注意 **下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害だけの発生が想定される内容」を示しています。**

● **直射日光のあたる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所には設置しないでください。**
変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。
● **清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。**
変色、塗料がはげる原因になることがあります。
普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。
● **製品の上に乗ったり、物を置いたりしないでください。**
落ちたり、倒れたりして、けが、故障の原因になることがあります。
● **製品を落としたり、強い衝撃を与えないでください。**
けが、故障の原因になることがあります。
● **水につけないでください。**
本機は防滴構造を施していますが、水につけると感電、故障の原因になることがあります。
● **指定以外の別売品を使用しないでください。**
故障の原因になることがあります。
● **アンテナやハンドストラップを持って本機を振り回したり、投げたりしないでください。**
本人または他人にあたり、けがの原因になることがあります。
また、故障や破損の原因になることがあります。
● **人の多い場所では使用しないでください。**
アンテナが人にあたり、けがの原因になることがあります。
● **本機を湿気やホコリの多い場所に置かないでください。**
故障の原因になることがあります。
● **本機をぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。**
落ちたり倒れたりして、けがの原因になることがあります。
● **磁気カードなどは本機に近づけないでください。**
磁気カードなどの内容が消去される場合があります。
● **小さなお子さまの手が届かない場所に保管してください。**
けがの原因になることがあります。
● **ハンドストラップやベルトクリップの取り付けは確実に行ってください。**
落下によるけが、本機の破損の原因になることがあります。
● **長期間ご使用にならないときは、本機の電源を切り、電池を取り外してください。**
● **電池はプラス“⊕”とマイナス“⊖”の端子にテープなどを貼り絶縁してから破棄してください。**

電波法上のご注意

◎ 電波法第 59 条で『**特定の相手方に対して行われる無線通信を傍受して、その存在若しくは内容を漏らし、又はこれを窃用してはならない**』と通信の秘密に関して定められています。
本機の取り扱いには十分配慮して、電波法を守ってください。

安全上のご注意

電池取扱上のご注意

- 電池は分解しないでください。
  電解液は強アルカリ性ですので、皮膚や衣類をいためたりします。
- 電池をショートしないでください。
  内部抵抗が小さいためショートすると大電流が放電され、機器を破損させたり、電池の発熱により、火傷の恐れがあります。
- 電池は火の中に投入しないでください。
  電池が破裂する恐れがあります。
- 電池に直接ハンダ付けしないでください。
  電池キャップ内の安全弁の破損による安全機構の破損の恐れがあります。
- 極性(⊕と⊖)の逆挿入はしないでください。
  電池がふくらんだり破裂する恐れがあります。

その他取り扱い上のご注意

- 本機は防滴構造JIS防滴Ⅱ型相当ですが、水のかかる場所での使用や濡れた手で触れないでください。
  水滴などが付着したときは、乾いた布で拭いてください。
- 受信バンドや受信状況によっては、外部アンテナの使用が効果的です。
- 外部アンテナを使用するときは、テレビなどのアンテナや、電灯線から離して設置してください。
- BC-149またはCP-18を接続したときに、スプリアスや雑音を受信することがあります。
  できるだけBC-149またはCP-18から本機を離して使用してください。
- ぬれた手でACアダプターに絶対触れないでください。
  感電の恐れがあります。
- 本機を使用できるのは、日本国内に限られています。

お願いとおことわり

◎ **本機は、厳重な管理のもとに生産、出荷されていますが万一ご不審な点、お気づきの点などがございましたら、できるだけ早くお買い上げいただいた販売店または弊社サポートセンターにお問い合わせください。**

◎ **本機は広帯域受信機です。**
本機の内部発振(スプリアス)により、受信できなかったり、雑音を発生する周波数もありますが、故障ではありません。

◇ この取扱説明書は、予告なく変更することがあります。

◇ 本文の操作説明に使用している操作図や状態表示は、操作時の一例ですから、ご使用の機器の状態とは一致しないことがあります。

◇ ビープ音(操作音)などは、出荷時の初期状態で説明していますので、操作中に設定を変更された場合は、説明と合わないことがあります。
なお、初期設定(値)と表現しているのは、工場出荷時またはオールリセット直後の設定状態をいいます。

◇ 説明の中で(☞00)の表示は、その項目を詳しく説明した参照ページを示しています。

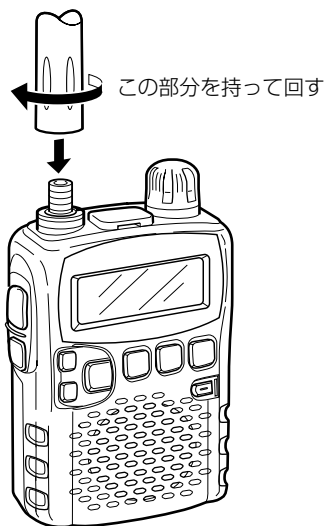
◇ **表記について**
メモリーチャンネル(**M-CH**)、プログラムスキャン用チャンネル(**PROGRAM-CH**)と略記しています。

登録商標について

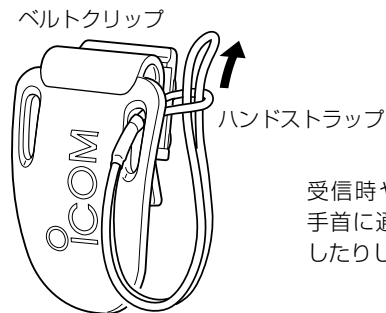
アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、ICOM、ポケットビープは、アイコム株式会社の登録商標です。

■ 付属品の取り付けかた

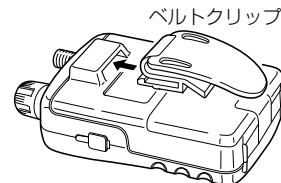
◇ アンテナを取り付ける

付属のアンテナでも十分に受信感度を得られますが、低い周波数帯や受信する場所により受信しにくい場合があります。
市販のアンテナを使用すると受信性能がさらによくなる場合がありますので、販売店にご相談ください。

《ご参考》
アンテナコネクターはSMA型となっています。
BNC接栓のアンテナを使用される場合は、別売品のAD-92SMA(SMA→BNC変換コネクター)をご利用ください。

◇ ハンドストラップを取り付ける

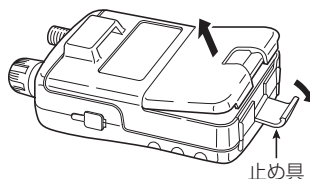
ベルトクリップの左右どちらかに取り付けてください。

受信時や持ち歩くときに、手首に通しておくと、落としたりしないで安全です。

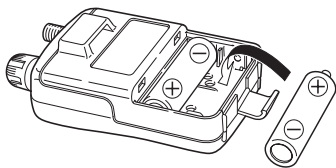
◇ ベルトクリップを取り付ける

本体背面の取り付け部に“カチッ”と音がするまではめ込んでください。

2 電源について

■ 電池をセット

◇ 電池カバーをはずす

電池カバーの止め具をはずして、電池カバーを取りはずします。

◇ 電池をセットする

市販の単三形アルカリ電池、またはニカド電池(単三形)を2本収容できます。
下図のように、電池の極性("⊕"と"⊖")に注意してセットします。

◇ 電池の交換時期のめやす

- **付属のニカド(単三形)電池は、連続受信で約6時間運用できます。**
- **アルカリ(単三形)電池は、連続受信で約10時間運用できます。**
  (FMラジオ受信時で、音声出力約50mWで運用した場合)

※ なお、上記の運用時間は目安であり、使用条件、電池の種類(性能)、充電の状態によって変わります。
本機には、ニカド電池、ニッケル水素電池、アルカリ電池がご使用になれます。

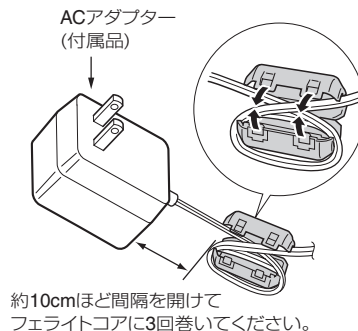
◇ 電池の残量表示について

電池の容量が残り少なくなると、電池マークが半分になります。さらに容量が少なくなると、表示が消えたり(電源が切れたり)、ディスプレイ全体が点滅、または表示が全体的に薄くなってきます。
このようなときは、アルカリ電池はすべて同じ種類の新しいアルカリ電池と交換してください。
また、ニカド電池、ニッケル水素電池の場合は充電してください。

■ ニカド電池の充電のしかた

BC-149(付属品)またはCP-18(別売品)を使用して、充電ができます。
※ **充電しながら、受信することもできます。**

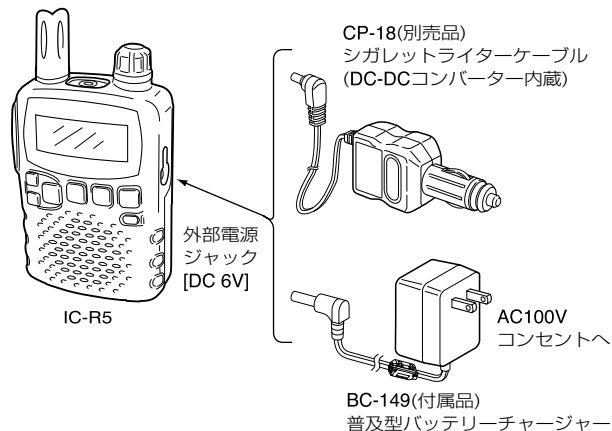
◇ ノイズ障害対策のために

下図を参照して、BC-149のケーブルに、付属のフェライトコアを必ず装着してください。

- BC-149
  電源プラグを家庭用電源のACコンセントに接続します。
- CP-18
  車のシガレットライターソケット(DC 12V系)に接続します。

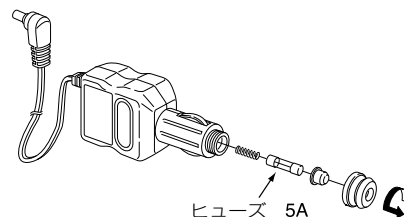
【ご注意】
- 電池を交換するときは、必ず電源を切ってから行ってください。
- 電池は、プラス“⊕”とマイナス“⊖”をまちがえないように注意して入れてください。
- ニカド電池、ニッケル水素電池は、同じメーカーの同一容量のものを使用してください。
- 長時間使用しないときは、電池を本機から外してください。電源を切っても、常に微電流が流れています。
- 電池の接触端子を定期的に清掃することにより、接触不良を防止することができます。
- ニカド電池にも寿命があります。
  充電しても使用時間が極端に短くなったときや、電源が入らなくなったときは、新しいニカド電池を購入してください。
- 乾電池に記載されている注意事項も、併せてお読みいただき、正しくご使用ください。

〔お願い〕
使用済みの充電式電池は、プラス “⊕” とマイナス “⊖” の端子にテープなどを貼り絶縁してから、充電式電池のリサイクル協力店にご持参ください。

■ ニカド電池の充電のしかた(つづき)

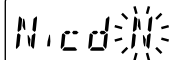
◇ 接続について

- **BC-149(付属品)**
  入力電圧：AC100V、50/60Hz
  出力電圧：DC6V、1A
- **CP-18(別売品)**
  入力電圧：DC12～16V
  出力電圧：DC6V、1.5A

◇ CP-18のヒューズ交換のしかた

CP-18は、5Aのヒューズが内蔵されています。
ヒューズが切れたときは、下図の方法で同じ容量のヒューズと交換してください。

※ 分解したとき、小さな部品をなくさないようにご注意ください。
※ ヒューズが切れたときは、原因を取り除いてから交換してください。

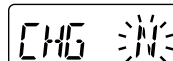
◇ 充電のしかた

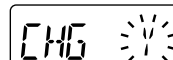
① ニカド電池(単三形)をセットします。
　※電池電圧(2本の合計電圧)が1V以下のときは動作しません。(☞P9参照)

② 外部電源ジャックに外部電源(BC-149またはCP-18)を接続します。

ディスプレイに“Nicd N”を表示して、ビープ音が鳴ります。

　※このとき、10秒間操作が行われなかった場合は、充電を行わず、元の表示に戻ります。
　※アルカリ電池をセットしているときは、必ず“Nicd N”を選択して、[BAND LOCK]を押してください。

③ [DIAL]を回して、“Nicd Y”を選択します。

④ [BAND LOCK]を押すと、ディスプレイに“CHG N”を表示します。

ディスプレイに“CHG N”を表示して、ビープ音が鳴ります。

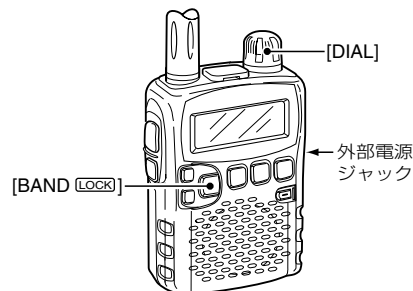
⑤ [DIAL]を回して、“CHG Y”を選択します。

⑥ [BAND LOCK]を押すと、充電を開始します。
充電開始と共に充電時間をカウントして、15時間で充電を停止します。(充電中は下記のように電池マークが点滅します。)

充電中の電池マークの表示

※本機は約120mAで充電を行っています。
　付属のニカド電池は約10時間でほぼ満充電となります。
　過充電を防止するために15時間で充電を停止しています。

電源OFF時の表示

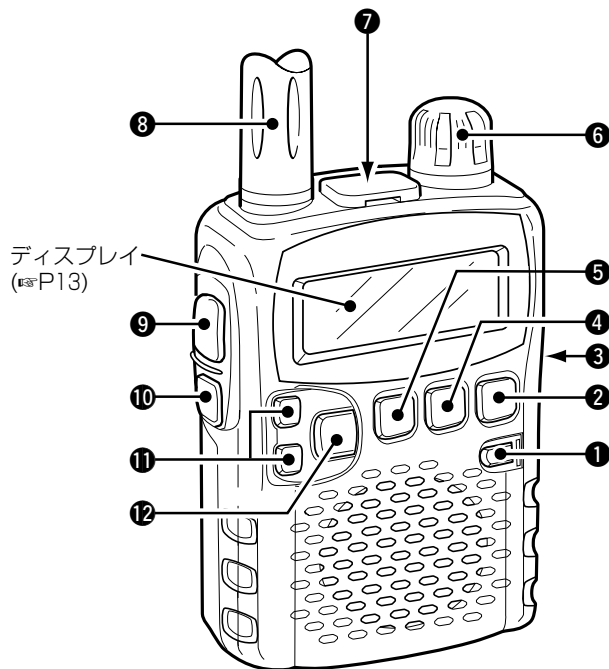
電源ON時の表示

15時間の充電後は、電池マーク全体が点滅表示します。

■ ニカド電池の充電のしかた(つづき)

※ 充電機能は、電源の**“ON/OFF”**に関係なく動作します。
※ 充電中に外部電源(BC-149またはCP-18)がはずれた場合、約1分以内であれば、再度外部電源を接続すると継続して充電を再開します。
※ 充電中に接続した外部電源(BC-149またはCP-18)が一時的に電圧降下したときも、約1分以内であれば、継続して充電を再開します。
なお、1分以上経過すると充電時間をリセットして、充電を再開します。
※ 電池電圧(2本の合計電圧)が1V以下の場合、充電機能は動作しません。
このときは、**[FUNC]**を押しながら外部電源(BC-149またはCP-18)を接続してください。
その後、**「充電のしかた」**(☞P8)にしたがって操作してください。
※ 充電を中止または変更するときは、
外部電源ジャックに接続しているBC-149またはCP-18をはずします。
電池を本体から2秒以上はずして、再セットします。
その後、**「充電のしかた」**(☞P8)にしたがって操作してください。

【充電時のご注意】

- **アルカリ電池使用時は、BC-149/CP-18を接続してアルカリ電池を絶対に充電しないでください。**
  BC-149/CP-18を接続したときは、充電機能を動作させないでください。
  (充電表示が消えていることを確認してください。)
  アルカリ電池を充電した場合は、液もれや発熱で本機に重大な破損を与えることがあります。
- 充電の温度範囲は0℃～40℃です。
  充電は、できるだけ常温で行ってください。
- ニカド電池を初めて使用するときは、必ず充電をしてください。
- 長期間使用しなかったニカド電池を充電するときは、1回の充電では、十分に充電されないことがありますので、2～3回充放電を繰り返してから充電してください。
- 大型車など24Vのバッテリーの場合は、CP-18の他にDC-DCコンバーター(24Vを12Vに変換)が必要です。
  お買い上の販売店にご相談ください。
- 満充電のニカド電池を繰り返して充電すると、ニカド電池を劣化させることがあります。
- ニカド電池の容量が少なくなる前に、充電を行うと見かけ上の容量が少なくなることがあります。(メモリー効果)
- 本機を使用しないとき、または充電しないときは、外部電源ジャックに外部電源(BC-149/CP-18)を接続しないでください。
- CP-18はDC-DCコンバーターを内臓しているため常に微電流が流れています。
  バッテリーを保護するためにも使用しないときは、シガレットライターソケットからはずしてください。

■ 上面/側面/前面パネル

❶ **PWR(電源)キー**

長く(約1秒)押すごとに電源を**"ON/OFF"**します。(☞P15)

❷ **V/M S.MW SKIP キー**

➥キーを短く押すごとに、VFOモードとメモリーモードを切り替えます。(☞P15、22)

※VFOモード時に押すとメモリーモード、メモリーモード時に押すとVFOモードにします。

➥キーを長く(約1秒)押すと、セレクトメモリーライト状態にします。(☞P29)

※メモリー表示部が点滅状態となり、[DIAL]ですべてのM-CHを呼び出すことができます。

➥[FUNC]を押しながら[V/M S.MW SKIP]を短く押すと、P SKIP(周波数スキップ)の指定を**"ON"/"OFF"**します。(☞P42)

❸ **外部電源ジャック(6V ±5%)**

付属のBC-149(ACアダプター)または別売品のCP-18(シガレットライターケーブル)を接続するジャックです。(☞P7)

※外部電源による受信、またはニカド電池の充電に使用することができます。

❹ **MODE SCANキー**

➥キーを短く押すごとに、受信モード(電波型式)を切り替えます。(☞P16)

※押すごとに、AUTO→FM→WFM→AMと受信モード(電波型式)を切り替えます。

➥キーを長く(約1秒)押すと、各種スキャンの選択状態になります。(☞P40)

※[DIAL]を回して、各種スキャンを選択します。
再度キーを押すごとに、選択したスキャンの"スタート"/"ストップ"操作を行います。

■ 上面/側面/前面パネル(つづき)

❺ TS SETキー

➥ キーを短く押すと、チューニングステップ(TS)の設定状態になります。(☞P24)

※ [DIAL]を回して、チューニングステップを選択します。

➥ キーを長く(約1秒)押すと、各種受信条件を設定するSETモード状態になります。(☞P50)

❻ DIAL(ダイヤル)ツマミ

VFOモードでは周波数の設定、メモリーモードではM-CHを呼び出します。(☞P17、22)
また、スキャン方向の変更などにも使用します。(☞P38)

❼ イヤホンジャック

別売品のイヤホンを接続するジャックです。

※ 別売品については72ページをご覧ください。

❽ アンテナコネクター

付属品のアンテナを接続するコネクターです。(☞P4)

※ SMAコネクターを使用すれば、外部アンテナを使用することができます。
BNC接栓のアンテナを使用される場合は、別売品のAD-92SMA(SMA→BNC変換コネクター)をご利用ください。

❾ FUNCキー

先に[FUNC]を押して、次に該当するキーを押すことにより、各種諸機能が動作します。

● VFOモード時

➥ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回すと、設定している周波数ステップで周波数をアップまたはダウンします。
(初期設定値/1MHzステップ)
※この周波数ステップは、SETモードで変更できます。
(☞P23、52)

➥ [FUNC]を押しながら[TS SET]を短く押すと、[DIAL]と[▲]/[▼]に割り当てている機能を反転します。(☞P26)

➥ [FUNC]を押しながら[SQL]を短く押すと、アッテネーター(ATT)機能を**“ON/OFF”**します。(☞P24)

● メモリーモード時

➥ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回すと、M-CHを10CHステップでアップまたはダウンします。

➥ [FUNC]を押しながら[BAND LOCK]を押すと、**「メモリーモード」→「B NAME**(バンクネーム)**」→「M NAME**(メモリーネーム)**」→「CH--000**(チャンネル表示)**」**と表示を切り替えます。(☞P35)

● TV(テレビ)モード時

[FUNC]を押しながら[DIAL]を回すと、すべてのTV-CH(1～62)をアップまたはダウンします。

- **SETモード時**

  [FUNC]を押しながら[DIAL]を回すと、SETモードの設定内容を選択します。(☞P50)

⑩ SQL(スケルチ)キー

SQL

キーを押している間、スケルチを開いて受信します。(モニター機能)(☞P25)

※キーを押しながら[DIAL]操作で、スケルチレベルを可変することができます。(☞P16)

⑪ 音量[▲](アップ) / [▼](ダウン)キー

音量レベルをアップまたはダウンします。

※[▲]または[▼]を押しながら[DIAL]操作でも調整できます。(☞P15)

⑫ BAND(バンド)キー

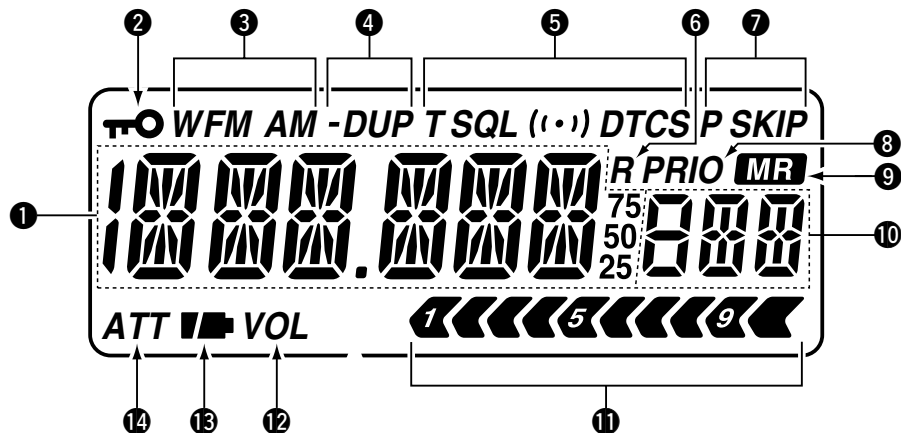
➥ VFOモード時は、受信バンドを切り替えます。(☞P15)

➥ メモリーモード時は、メモリーモード時の表示機能を切り替えます。(☞P22)

押すごとに、**「バンク A」→「バンク B」〜「バンク Y」→「オートメモリーライト用チャンネル」→「メモリーモード」**と切り替えます。

※キーを押しながら[DIAL]操作でも切り替えができます。

➥ [FUNC]を押しながら[BAND LOCK]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと、キーロック機能を**“ON/OFF”**します。(☞P66)

■ ディスプレイ

❶ **周波数表示部**
受信周波数、メモリー、バンクネーム、SETモードの内容などを表示します。
SETモード時は設定項目と設定内容を表示します。(☞P50)

❷ **ロック表示部**
キーロック機能が動作していることを表示します。(☞P66)

❸ **MODE表示部**
受信モード(電波型式)を表示します。(☞P16)

❹ デュプレックス表示部
デュプレックスモード(−DUP/＋DUP)を選択していることを表示します。(☞P60)

❺ トーンスケルチ/デジタルコードスケルチ表示部
トーンスケルチ/デジタルコードスケルチなどに設定されている機能を表示します。(☞P61、62)
- “T SQL”点灯　：トーンスケルチ機能の動作中を表示
- “T SQL((•))”点灯：CTCSSによるポケットビープ機能の動作中を表示
- “DTCS”点灯　：DTCSコードスケルチ機能の動作中を表示
- “((•)) DTCS”点灯：DTCSによるポケットビープ機能の動作中を表示
- “SQL”点灯　：空線キャンセラー機能、MSK機能の動作中を表示

❻ オートメモリーライト用チャンネル表示部
オートメモリーライトスキャンで書き込んだチャンネルであることを表示します。(☞P41)

❼ スキップ表示部
スキップ機能を表示します。(☞P42)
- “SKIP”点灯　：メモリースキップを表示
- “P SKIP”点灯　：スキップスキャンを表示

❽ プライオリティー表示部
プライオリティスキャンが動作中のときに点灯します。
(☞P45)

❾ メモリーモード表示部
メモリーモード状態を表示します。(☞P28)

❿ メモリー表示部
メモリーバンク、メモリーチャンネル番号、SETモード項目などを表示します。

⓫ Sメーター表示部
受信した信号の強さを表示します。(☞P17)

⓬ VOL(ボリューム)表示部
[▲]/[▼]の音量調整と[DIAL]の周波数調整に割り当てている機能を反転していることを表示します。(☞P26)
点灯時は、[▲]/[▼]が周波数調整、[DIAL]が音量調整となります。

⓭ 電池マーク表示部
電池の残容量を表示します。
残りが少なくなると電池マークが半分になります。
※充電中は点滅します。(☞P8)

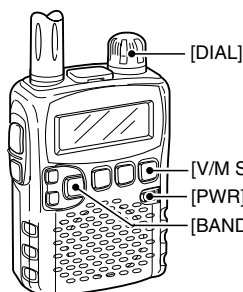
⓮ アッテネーター表示部
アッテネーター(ATT)機能が選択されていることを表示します。(☞P24)

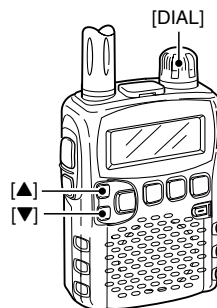
■アマチュアバンドを受信してみる

◇アマチュアバンド(430Mバンド)を選択する

① [PWR]を長く(1秒以上)押して、電源を“ON”にします。
電源を“ON”すると、電源を切る前の状態を表示します。
※電源を“OFF”にするときは、再度[PWR]を長く(1秒以上)押します。

② [V/M S.MW SKIP]を短く押して、VFOモードにします。
※押すごとに、VFOモードとメモリーモードを切り替えます。

③ [BAND LOCK]を押して、アマチュアバンド(430Mバンド)を選択します。
※押すごとに「BC(1M)」→「5M」→「50M」→「FM放送(76M)」→「AIR」→「144M」→「300M」→「430M」→「800M」→「1200M」→「TV」→「BC(1M)」と受信バンドが切り替わります。
※または、[BAND LOCK]を押しながら[DIAL]を回して選択します。

◇音量を調整する

音量の[▲]または[▼]を押して、音量を調整します。
(ディスプレイは音量レベルの表示になります。)
※ 押し続けると、連続動作になります。
※ または、音量の[▲]または[▼]を押しながら[DIAL]を回して調整します。
※ 押すごとにビープ音が鳴り、音量のめやすになります。
※ 音量調整中は、32段階の音量レベルを7段階に分けて表示します。

表示	音量レベル
_ _ _ _ _ _	0(無音)
0 _ _ _ _ _	1~11
00 _ _ _ _	12~18
☆000 _ _ _	19~23
0000 _ _	24~27
00000 _	28~30
000000	31(最大)

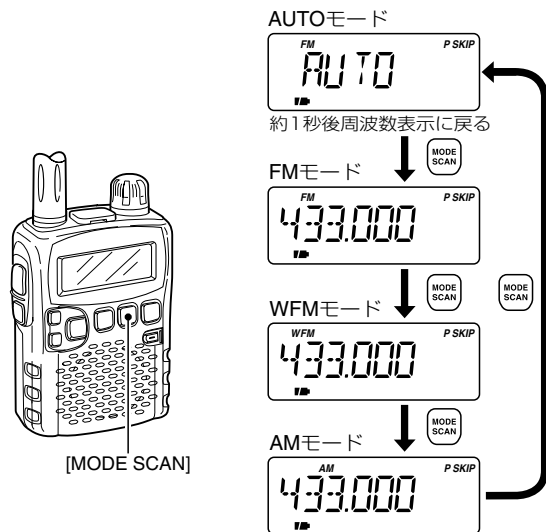
☆印は、初期設定値

◇ 受信モード(電波型式)を設定する

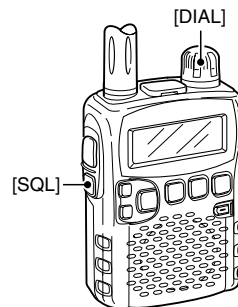
受信モード(電波型式)は初期設定で“AUTO”を設定しています。“AUTO”選択時は、受信バンドごとに通常使われている、受信モード(電波型式)が選択されます。

※ 受信モード(電波型式)を変えるときは[MODE SCAN]を短く押して、受信モード(電波型式)を選択します。

※ 短く押すごとに「AUTO」→「FM」→「WFM」→「AM」→「AUTO」と受信モード(電波型式)を切り替えます。

- 設定した受信モード(電波型式)は、受信中のバンドのみ有効です。

◇ スケルチレベルを調整する

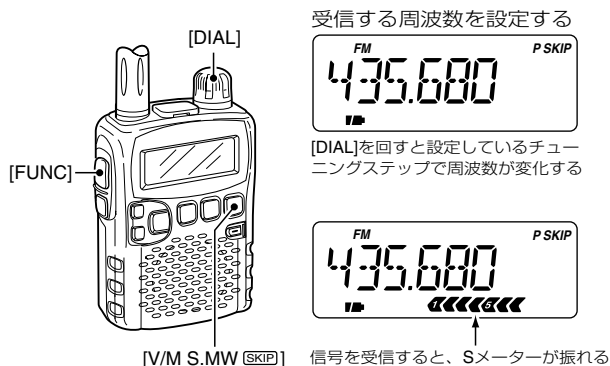
① [SQL]を押しながら[DIAL]を1クリック回すと、現在設定しているスケルチレベルを表示します。
※初期設定で“AUTO”を設定しています。

② 信号を受信していない状態で雑音(ザー)が消える位置に、[SQL]を押しながら[DIAL]を回してスケルチレベルを調整します。
※スケルチレベルの数値が小さいほど、弱い信号でも受信することができます。

表示	スケルチレベル
OPEN	オープン(開放)
☆ AUTO	オート(自動)
LEVEL 1	レベル 1
LEVEL2	レベル 2
LEVEL3	レベル 3
LEVEL4	レベル 4
LEVEL5	レベル 5
LEVEL6	レベル 6
LEVEL7	レベル 7
LEVEL8	レベル 8
LEVEL9	レベル 9

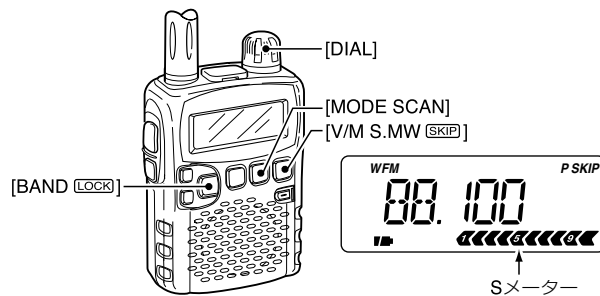
☆印は、初期設定値

■アマチュアバンドを受信してみる (つづき)

◇ 周波数を設定する

① [V/M S.MW SKIP]を短く押して、VFOモードにします。
※短く押すごとに、VFOモードとメモリーモードを切り替えます。
② [DIAL]を回して、受信する周波数を設定します。
※アマチュアバンドのチューニングステップは、20kHzステップを初期設定しています。
※周波数を大きく変えるときは、[FUNC]を押しながら[DIAL]を回します。
1MHzステップ(初期設定値)で周波数を設定できます。
③ 受信すると、信号の強さに応じてSメーターが振れます。

■FM(ラジオ)放送を受信する

《例》FMラジオ　88.100MHzを受信する

① [V/M S.MW SKIP]を短く押して、VFOモードを選択します。
② [BAND LOCK]を押して、FM放送(76M)バンドを選択します。(初期表示：76.000MHz)
※または、[BAND LOCK]を押しながら[DIAL]を回して選択します。
③ [MODE SCAN]を短く押して、WFMモードを選択します。
※AUTOモード選択時は、自動的にWFMモードになります。
④ [DIAL]を回して、88.100MHzを設定します。
⑤ 受信すると、ラジオ放送が聞こえてきます。
信号の強さに応じてSメーターが振れます。

※ イヤホンアンテナまたは内蔵のバーアンテナを使用したときは、ノイズを受けたり、スプリアスを受信することがあります。この場合は、付属アンテナまたは外部アンテナを使用することをおすすめします。
※ FMラジオ放送またはAMラジオ放送以外を受信するときは、必ず付属アンテナまたは外部アンテナを取り付けてください。

■BC(1M)バンド/FM放送(76M)バンドのアンテナについて

- BC(1M)バンドでAMラジオ放送の周波数帯(0.495〜1.620MHz)において、受信用のバーアンテナを内蔵しています。
- FM放送(76M)バンドでFMラジオ放送の周波数帯(76.000〜107.995MHz)において、接続するイヤホンをイヤホンアンテナとして使用できます。
  AMラジオ受信用のバーアンテナまたはFMラジオ受信用のイヤホンアンテナと外部アンテナ(付属のアンテナ)の切り替えは、SETモードで行います。
  ※イヤホンアンテナに切り替えた場合でも、外部アンテナで受信は可能です。

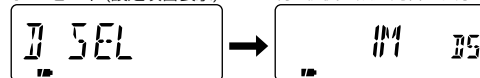
① [V/M S.MW SKIP]を短く押して、VFOモードにします。
② [BAND LOCK]を押して、BC(1M)バンドまたはFM放送(76M)バンドを選択します。
③ [DIAL]を回して、周波数を設定します。
※BC(1M)バンド選択時は、0.495〜1.620MHz範囲内、FM放送(76M)バンド選択時は、76.000〜107.995MHz範囲内でそれぞれの放送局の周波数を設定します。

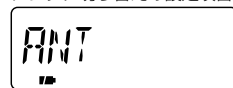
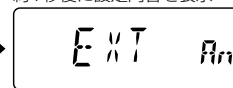
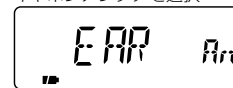
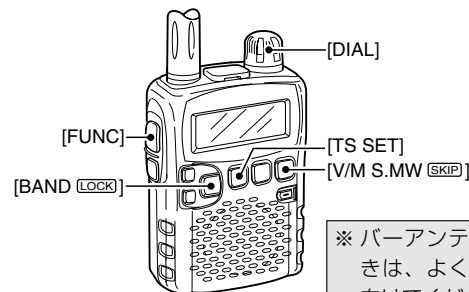
AMラジオ放送の周波数を設定する

AM P SKIP 1.422

④ [TS SET]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、SETモードにします。
(設定項目を約1秒間表示後、設定内容の表示に変わります。)

SETモード(設定項目表示)

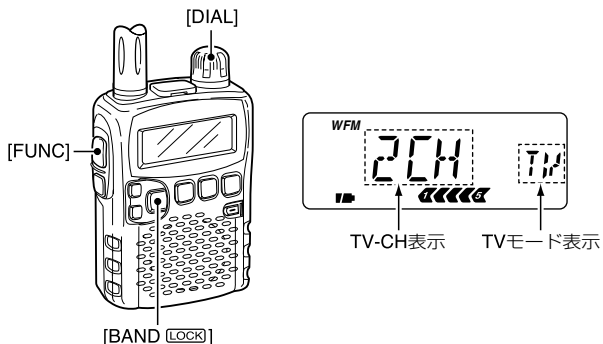
D SEL → 1M DS

約1秒後に設定内容を表示

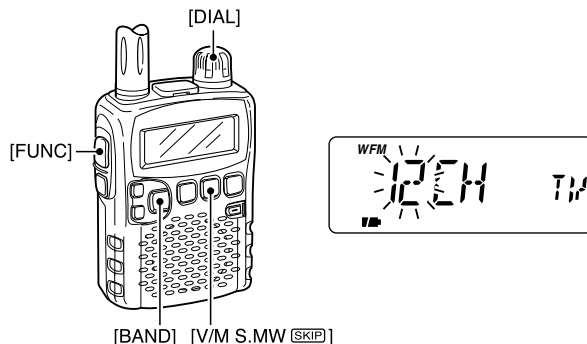
⑤ [DIAL]を回して、アンテナ切り替えの設定項目を選択します。

⑥ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、**EXT**(外部アンテア)または**BAR**(バーアンテナ)を選択します。
※FM放送(76M)バンド選択時は、**EXT**(外部アンテア)または**EAR**(イヤホンアンテナ)を選択します。

⑦ [TS SET]を短く押すと、SETモードを解除して元の周波数表示に戻ります。

※ バーアンテナを使用したときは、よく聞こえる方向に向けてください。

■TV(テレビ)放送を受信する

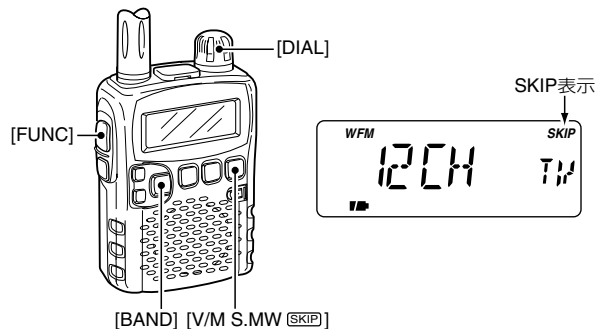
TVモードではVHF(1～12CH)、UHF(13～62CH)の音声を受信することができます。
テレビ放送は、地域により受信できる局が限られています。
本機は、受信できる局だけを自動的に登録するTVバンドのスキップスキャン機能があります。

◇受信のしかた

① [BAND LOCK]を押して、TVバンドを選択します。
※押すごとに「BC(1M)」→「5M」→「50M」→「FM放送(76M)」→「AIR」→「144M」→「300M」→「430M」→「800M」→「1200M」→「TV」→「BC(1M)」と受信バンドが切り替わります。
② [DIAL]を回して、TV-CH選択します。
(初期時は、VHFの1～12CHのみ選択できます。)
※[FUNC]を押しながら[DIAL]を回すと、全CH(1～62)を選択することができます。

◇TVスキップスキャンのしかた

受信できないCHに自動でスキップ(SKIP)を指定することができます。
① [BAND LOCK]を押して、TVバンドを選択します。
② [MODE SCAN]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと、1CHから62CHまでを1回だけスキャンして止まります。
※このスキャンは受信できないCHを検出して、自動的にスキップ(SKIP)を指定していきます。
以後、[DIAL]を回すと、受信できるCHだけを表示して、スキップ(SKIP)が指定されたCHは表示しません。
ただし、[FUNC]を押しながら[DIAL]を回すと、全CH(1～62)を選択することができます。

◇ 手動でスキップを指定する

① [DIAL]を回して、スキップを指定するCHを選択します。
または[FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、スキップを解除するCHを選択します。

② [FUNC]を押しながら[V/M S.MW SKIP]を押すごとに、スキップの指定(SKIP表示点灯)または解除(SKIP表示消灯)を行います。

【TVスキップスキャン機能についてのご注意】
TVスキップスキャン中にTV電波が受信されなくても、スプリアスやノイズにより“SKIP”が設定されない場合があります。
また、電波が弱い場合や時間帯によりTV電波が出ていない場合は、“SKIP”が設定されることがあります。

■ テレビ放送(音声)周波数一覧表　単位MHz

CH番号	周波数	CH番号	周波数	CH番号	周波数
VHF 1CH	95.75	UHF 22CH	529.75	UHF 43CH	655.75
2CH	101.75	23CH	535.75	44CH	661.75
3CH	107.75	24CH	541.75	45CH	667.75
4CH	175.75	25CH	547.75	46CH	673.75
5CH	181.75	26CH	553.75	47CH	679.75
6CH	187.75	27CH	559.75	48CH	685.75
7CH	193.75	28CH	565.75	49CH	691.75
8CH	197.75	29CH	571.75	50CH	697.75
9CH	203.75	30CH	577.75	51CH	703.75
10CH	209.75	31CH	583.75	52CH	709.75
11CH	215.75	32CH	589.75	53CH	715.75
12CH	221.75	33CH	595.75	54CH	721.75
UHF 13CH	475.75	34CH	601.75	55CH	727.75
14CH	481.75	35CH	607.75	56CH	733.75
15CH	487.75	36CH	613.75	57CH	739.75
16CH	493.75	37CH	619.75	58CH	745.75
17CH	499.75	38CH	625.75	59CH	751.75
18CH	505.75	39CH	631.75	60CH	757.75
19CH	511.75	40CH	637.75	61CH	763.75
20CH	517.75	41CH	643.75	62CH	769.75
21CH	523.75	42CH	649.75		

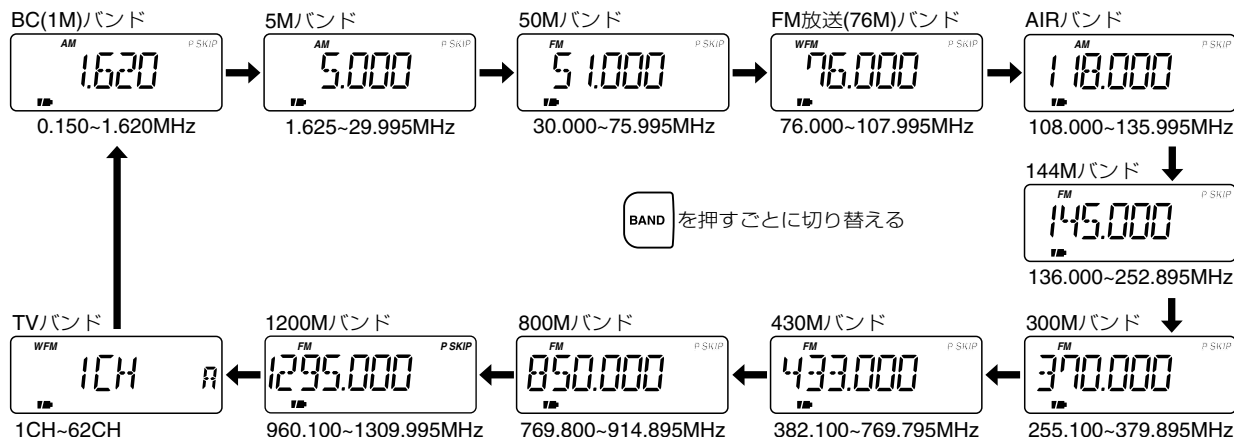
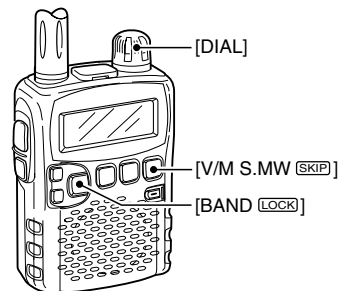
■受信バンド(周波数帯)について

各バンドごとの周波数範囲と初期設定周波数は、下図のとおりです。

◇受信バンドの選択

① [V/M S.MW SKIP]を短く押して、VFOモードにします。
　※短く押すごとに、VFOモードとメモリーモードを切り替えます。
② [BAND LOCK]を押して、受信バンドを選択します。
　※または、[BAND LOCK]を押しながら[DIAL]を回して、選択します。

BC(1M)バンド AM P SKIP 1.620 0.150~1.620MHz
→ 5Mバンド AM P SKIP 5.000 1.625~29.995MHz
→ 50Mバンド FM P SKIP 51.000 30.000~75.995MHz
→ FM放送(76M)バンド WFM P SKIP 76.000 76.000~107.995MHz
→ AIRバンド AM P SKIP 118.000 108.000~135.995MHz
↓ 144Mバンド FM P SKIP 145.000 136.000~252.895MHz
↓ 300Mバンド FM P SKIP 370.000 255.100~379.895MHz
← 430Mバンド FM P SKIP 433.000 382.100~769.795MHz
← 800Mバンド FM P SKIP 850.000 769.800~914.895MHz
← 1200Mバンド FM P SKIP 1295.000 960.100~1309.995MHz
← TVバンド WFM 1CH 1CH~62CH
↑ (BC(1M)バンドへ)

BANDを押すごとに切り替える

■VFOモードとメモリーモードの切り替えかた

VFOモードとメモリーモードは、下記のように使い分けします。

◇ VFOモードにするには

[DIAL]で周波数を設定するモードです。

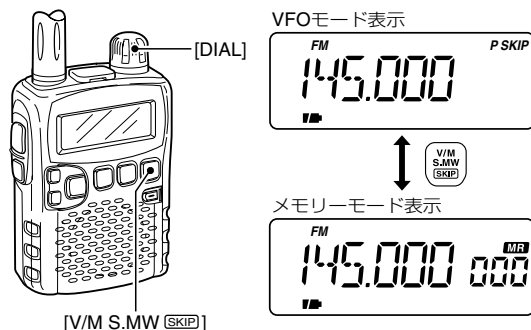
① [V/M S.MW SKIP]を短く押します。
※短く押すごとにVFOモードとメモリーモードが切り替わります。

② 以後、[DIAL]を回すと、周波数の設定ができます。(☞P17)

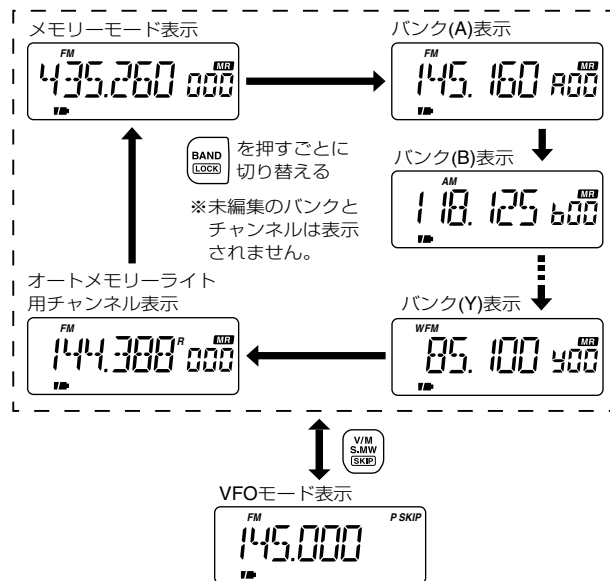
◇ メモリーモードにするには (☞P27)

あらかじめ記憶させたM-CHを呼び出して受信するモードです。

① [V/M S.MW SKIP]を短く押します。
(" MR "表示とM-CH番号が点灯します。)

② 以後、[DIAL]を回すと、書き込まれているM-CHのみ呼び出します。

◇ メモリーモード時の表示切り替えについて

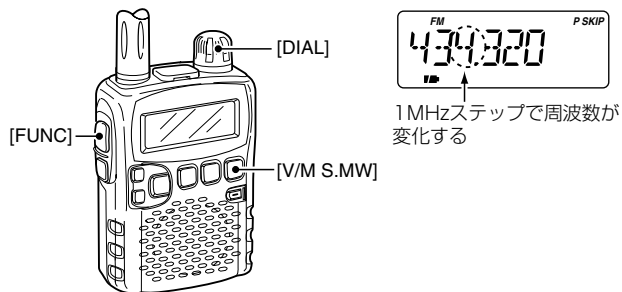
メモリーモード時に[BAND LOCK]を押すごとに、**「バンク A」→「バンク B」～「バンク Y」→「オートメモリーライト用チャンネル」→「メモリーモード」**と表示を切り替えます。

※ または、[BAND LOCK]を押しながら[DIAL]を回します。

※ VFOモード表示は、選択した受信バンドを表示します。

■周波数を大きく変えるときは

周波数を大幅に移動するときに便利な機能です。

① [V/M S.MW SKIP]を短く押して、VFOモードにします。
※短く押すごとに、VFOモードとメモリーモードを切り替えます。

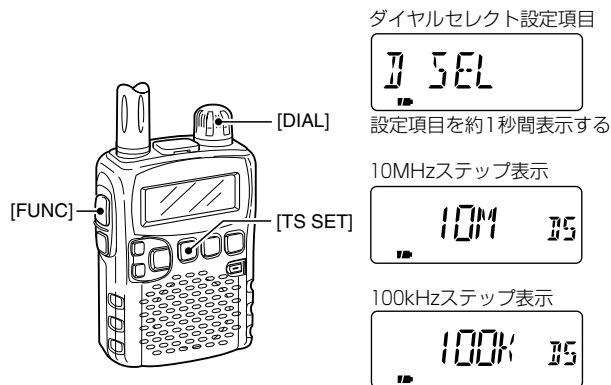
② [FUNC]を押しながら[DIAL]を回します。
※1MHzステップ(初期設定値)で周波数を設定できます。
※この周波数ステップは、100kHzステップまたは10MHzステップにSETモードで変更できます。

◇周波数ステップを変更する

周波数ステップは、SETモードで変更できます。

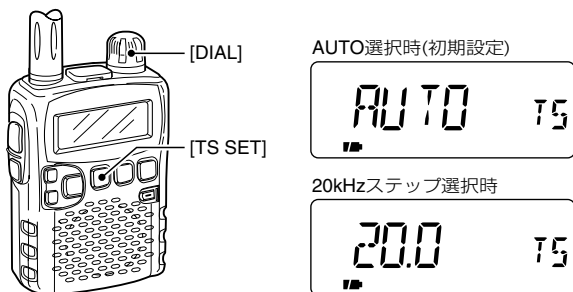
① [TS SET]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、SETモードにします。
(設定項目を約1秒間表示後、設定内容の表示に変わります。)

② [DIAL]を回して、「D SEL(ダイヤルセレクトの設定)」項目を選択します。

③ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、周波数ステップを選択します。
- 100k ：周波数ステップが100kHzになります。
- 1M ：周波数ステップが1MHzになります。(初期設定)
- 10M ：周波数ステップが10MHzになります。

④ [TS SET]を短く押すと、SETモードを解除して元の周波数表示に戻ります。

■チューニングステップを変える

① [TS SET]を短く押します。
(チューニングステップ表示します。)
※チューニングステップは、初期設定で**“AUTO”**を設定しています。
② [DIAL]を回して、チューニングステップを選択します。
※5.0/6.25/8.33*1/9.0*2/10.0/12.5/15.0/20.0/25.0/30.0/50.0/100.0kHzおよびAUTOが選択できます。
- ＊1 ：AIRバンドのみ選択でき、その他のバンドでは選択できません。
- ＊2 ：BC(1M)バンドのみ選択でき、その他のバンドでは選択できません。

③ [TS SET]を短く押すと、周波数表示に戻ります。

■アッテネーター(ATT)機能について

アッテネーター(減衰器)は、強い信号を受信したときに減衰して受信音のひずみを低減します。
アッテネーターの減衰量は、約10dBですが受信周波数により、変化します。
[FUNC]を押しながら[SQL]を短く押すと、アッテネーター(ATT)機能を**“ON/OFF”**します。
“ON”時は、“ *ATT* ”表示が点灯します。
※ アッテネーター機能は、すべてのバンドで動作します。
ただし、バーアンテナまたはイヤホンアンテナを使用しているときは動作しません。
(☞P18参照)

■モニターのしかた

受信信号が弱かったり、途切れたりして聞こえにくい場合に効果があります。

[SQL]を押している間、スケルチを開いて受信します。
スケルチレベルの**“OPEN”**と同じ状態になります。

※ [SQL]の動作を、1回押すごとに**“ON/OFF”**するようにSETモードで変更できます。(モニターホールド機能 ☞P54)

◇ モニター機能を変更する

モニター機能は、SETモードで変更できます。

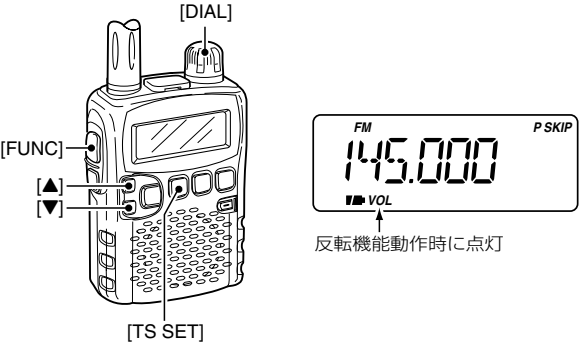
① [TS SET]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、SETモードにします。
(設定項目を約1秒間表示後、設定内容の表示に変わります。)
② [DIAL]を回して、**「EXPAND(機能拡張)の設定」**項目を選択します。
③ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、**“ON”**を選択します。
④ [DIAL]を回して、**「MONI(モニターホールド機能の設定)」**項目を選択します。
⑤ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、選択します。
- ● PUSH ：押している間、スケルチを開きます。(初期設定)
- ● HOLD ：一回押すとスケルチを開き、もう一度押すとスケルチを閉じます。

⑥ [TS SET]を短く押すと、SETモードを解除して元の周波数表示に戻ります。

■[DIAL]と[▲]/[▼]に割り当てている機能を反転する

[DIAL](周波数やM-CHなどの設定)と、[▲]/[▼](音量調整)に割り当ててある機能を反転することができます。

[FUNC]を押しながら[TS SET]を押すごとに、反転機能が“ON/OFF”します。

※ 反転機能動作時は“*VOL*”表示が点灯します。

	通常の動作	反転時の動作
DIAL	周波数の設定 M-CHの設定 スケルチの設定 スキャン方向の変更 SETモードの項目と内容の設定	音量の調整
▲ ▼	音量の調整	周波数の設定 M-CHの設定 スケルチの設定 スキャン方向の変更 SETモードの項目と内容の設定

5　メモリーの使いかた

■メモリーモードについて

よく使用する周波数や情報などを、あらかじめメモリーチャンネル(**以下、M-CHと略記します。**)に記憶させておき、すばやく呼び出して受信するためのモードです。

◆表記について

- 本機には、通常のM-CHとして1000CH(受信バンドの区別はありません)、プログラムスキャン用チャンネル(**以下、PRO-GRAM-CHと略記します。**)として50CH(00A/00B～24A/24B)、およびオートメモリーライト 200CH(^{R}000～^{R}199)の合計1250CHを内蔵しています。
- M-CHで受信する際は、メモリーモードにします。
メモリー(記憶)していないM-CHは呼び出さないので、すばやく目的のM-CHを呼び出せます。
- M-CHに記憶する際は、VFOモードで内容を設定したあと、書き込み操作をします。

◆M-CHに記憶できる内容

すべてのM-CHで受信周波数のほかに、下記の内容を記憶します。

- 「デュプレックスのON/OFF」、「シフト方向(+/−)」、「オフセット周波数」、「トーンスケルチのトーン周波数と受信モードのON/OFF」、「DTCSコード・極性」、「メモリーバンク」、「メモリーネーム」、「スキップのON/OFF」、「チューニングステップ(TS)」、「受信モード(電波型式)」

◆メモリーチャンネル(M-CH)の内容

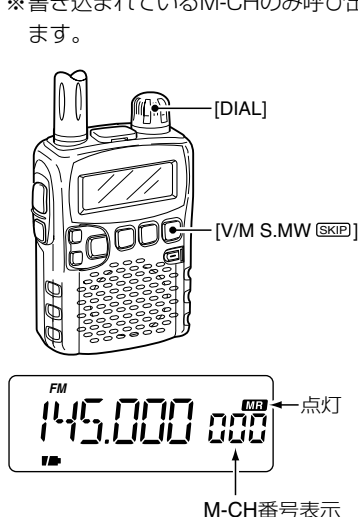
チャンネル	お　も　な　用　途
000～999 (M-CH)	● 通常のM-CHとして使用する ● 工場出荷時に記憶している内容 “000”：145.000MHz “001”：433.000MHz ※002～999は工場出荷時、ブランクチャンネルのため表示しない
00A/00B～ 24A/24B (PROGRAM-CH)	● プログラムスキャンの周波数設定用 (25組、50CH) ● 工場出荷時に記憶している内容 “00A”：0.150MHz　/“00B”：1300.000MHz “01A”：144.000MHz　/“01B”：146.000MHz “02A”：430.000MHz　/“02B”：440.000MHz ※“03A/03B～24A/24B”は工場出荷時、ブランクチャンネルのため表示しない
^{R}000～^{R}199 (オートメモリーライト用チャンネル)	● オートメモリーライトスキャン時の自動書き込み用 “^{R}000”～“^{R}199” (200CH)

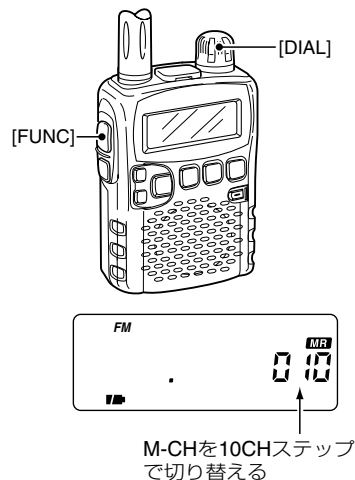
【ご注意】
メモリーの内容は、静電気や電気的雑音などで消失することがあります。また故障や修理の際にも消失する場合があります。
メモリーの内容を紙などに控えておくことをおすすめします。

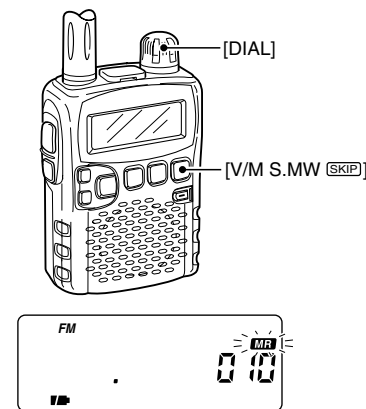
■メモリーチャンネル(M-CH)の呼び出しかた

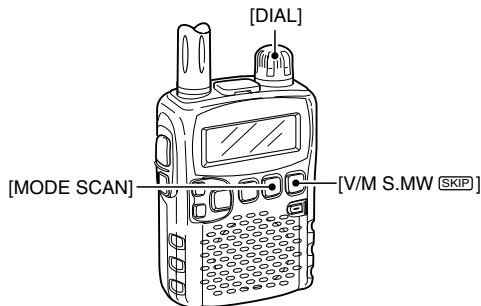
M-CHは、[DIAL]ツマミで呼び出せます。

◇ [DIAL]ツマミで呼び出すには

① [V/M S.MW SKIP]を短く押して、メモリーモードにします。
※短く押すごとに、VFOモードとメモリーモードを切り替えます。
② [BAND LOCK]を押して、メモリーモード表示にします。
③ [DIAL]を回します。
※書き込まれているM-CHのみ呼び出します。

◇ 10CHステップで呼び出すには

[FUNC]を押しながら[DIAL]を回します。
※ M-CHを10CHステップで、呼び出すことができます。
(ブランクチャンネルも呼び出します。)

◇ 書き込んでいないM-CHを呼び出すには

① [V/M S.MW SKIP]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと、セレクトメモリーライト状態になります。
(M-CH表示部が点滅して、メモリー内容を表示します。)
② [DIAL]を回すと、すべてのM-CHを呼び出し、確認することができます。

■メモリー(M-CH/PROGRAM-CH)への書き込みかた

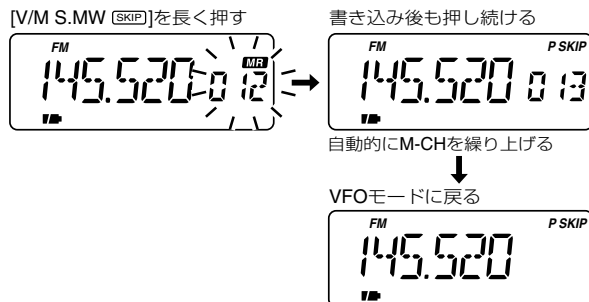
メモリーチャンネル(M-CH)、プログラムスキャン用チャンネル(PROGRAM-CH)への書き込み、または書き替えをします。
工場出荷時は、チャンネル**"002〜999"**までがブランクチャンネルになっています。
なお、受信バンドによるM-CHの区別はありません。

◇ M-CHへの書き込みかた

【例】"145.520MHz"をチャンネル**"012"**に書き込む場合

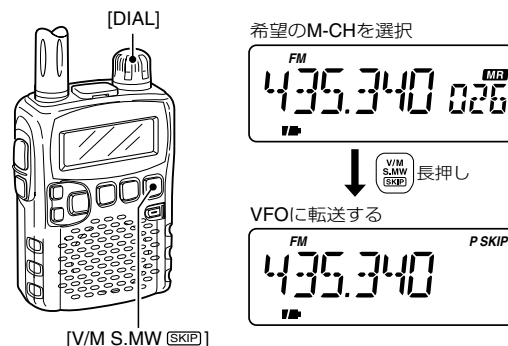
① **[V/M S.MW SKIP]**を短く押して、VFOモードにします。
※短く押すごとに、VFOモードとメモリーモードを切り替えます。
② **[BAND LOCK]**を短く押して、**144Mバンド**を選びます。
③ **[DIAL]**を回して、周波数を**"145.520MHz"**にします。
④ **[V/M S.MW SKIP]**を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、セレクトメモリーライト状態にします。
(M-CH表示部が点滅して、メモリー内容を表示します。)
⑤ **[DIAL]**を回して、M-CHを**"012"**にします。
※**"VF"**を選ぶとVFO、**"00A/00B〜24A/24B"**を選ぶとPROGRAM-CHに書き込めます。
⑥ **[V/M S.MW SKIP]**を長く(ピッ ピピと鳴るまで)押すと、メモリー内容を表示してVFOモードに戻ります。

◇ 書き込み後のオートインクリメントについて

左記⑥[V/M S.MW SKIP]を書き込み完了後も押し続ける(約1秒間､ピッピピ､ピーが鳴るまで)とM-CHが1CHだけ自動的に繰り上がり、VFOモードになります。

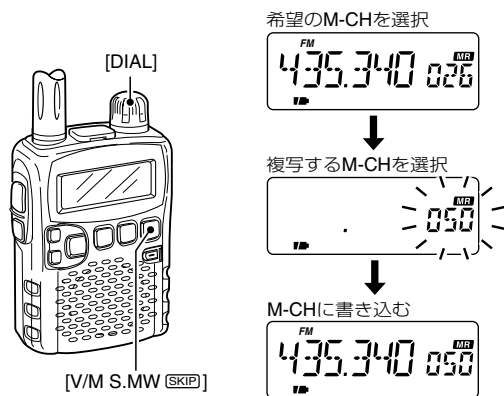
M-CHに順次続けて書き込みをするときに便利な機能です。

◇ メモリー内容をVFOに転送して使うには

使用しているM-CHの周辺に移って受信する場合などに便利な機能です。

① [V/M S.MW SKIP]を短く押してメモリーモードにします。
　※短く押すごとに、VFOモードとメモリーモードを切り替えます。
② [BAND LOCK]を押して、メモリーモード表示にします。
③ [DIAL]で希望のM-CHを呼び出します。
④ [V/M S.MW SKIP]を長く(ピツ、ピーピピと鳴るまで)押します。
　M-CHの内容をVFOに転送して、VFOモードになります。

■ メモリー(M-CH/PROGRAM-CH)への書き込みかた (つづき)

◇ メモリー内容を他のチャンネルへ複写するには

M-CHの内容をプログラムスキャン用周波数として複写する場合に便利な機能です。

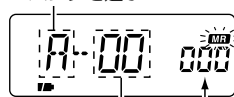
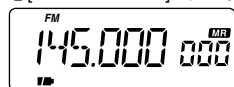
① [V/M S.MW SKIP]を短く押して、メモリーモードにします。
※短く押すごとに、VFOモードとメモリーモードを切り替えます。
② [BAND LOCK]を押して、メモリーモード表示にします。
③ [DIAL]を回して、希望のM-CHを呼び出します。
④ [V/M S.MW SKIP]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
(M-CH表示部が点滅して、メモリー内容を表示します。)
⑤ [DIAL]を回して、複写したいM-CHを選びます。
※"VF"を選ぶとVFO、"00A/00B～24A/24B"を選ぶとPROGRAM-CHに書き込みます。
⑥ [V/M S.MW SKIP]を長く(ピッピピと鳴るまで)押します。

■メモリーチャンネル(M-CH)の内容をバンクで編集する

本機のM-CHは1000CH(000～999)あります。
1000CHに書き込んだM-CHの内容を18個のバンク(A～H、J、L、N～R、T、U、Y)に分割して編集することができます。
各バンクには、00～99(100CH)のチャンネルが割り当ててあります。

◇ M-CHとバンクチャンネルの使用例

メモリーバンクは、M-CHを整理するために使用します。編集もとのM-CHを変更または更新するとメモリーバンクの内容も変更されます。

◇ 編集のしかた

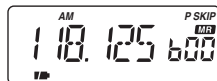
① [V/M S.MW SKIP]を短く押して、メモリーモードにします。
※ 短く押すごとに、VFOモードとメモリーモードを切り替えます。
※ [BAND LOCK]を押して、メモリーモード表示にします。(☞P22参照)
② [DIAL]を回して、バンクで編集するM-CHを選びます。
③ [V/M S.MW SKIP]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、セレクトメモリーライト状態にします。
(M-CH表示部が点滅して、メモリー内容を表示します。)
④ [MODE SCAN]を短く押して、“BANK”項目を選択します。
※ [MODE SCAN]から指を離すと、バンクの選択状態になります。
※ 選択したM-CHをすでに編集している場合は、編集しているバンクとチャンネルを表示します。
⑤ [BAND LOCK]を短く押して、バンクを選択します。
※ または、[BAND LOCK]を押しながら[DIAL]を回して、バンク選択します。
⑥ [DIAL]を回して、チャンネルを選びます。
※ すでに編集しているバンクのチャンネルを選ぶことはできません。
⑦ [V/M S.MW SKIP]を短く押すと、指定したバンクのチャンネルに編集して、メモリーモードに戻ります。

■メモリー / バンクネームの使いかた

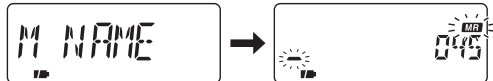
メモリーに記憶しているM-CH、または編集した各バンクにアルファベット、数字、記号を使用して、6文字以内で名前(ネーム)を入れることができます。
※ 編集していないバンクは選択できません。

◇ メモリー/バンクネームを入力する

《例》M-CH**"045"**に**"NHK-FM"**のメモリーネームを入れる場合
《例》バンク**"b"**に**"AIR"**のバンクネームを入れる場合

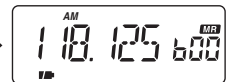
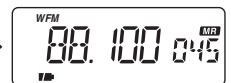
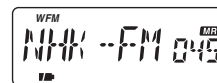
① **[V/M S.MW SKIP]**を短く押して、メモリーモードにします。
② **[BAND LOCK]**を押して、メモリーモード表示またはバンク表示にします。
※バンクを選択するときは、**[BAND LOCK]**を押して、ネームを入れたいバンクを選びます。
③ **[DIAL]**を回して、ネームを入れたいM-CHを選びます。

M-CHを選択　　バンクを選択

④ **[V/M S.MW SKIP]**を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。(M-CH表示部が点滅します。)
⑤ **[MODE SCAN]**を数回押して、**"M　NAME**(メモリーネーム)**"**または**"B　NAME**(バンクネーム)**"**項目を選択します。(メモリーネームまたはバンクネームの表示画面となり、ネームの1桁目と**"-MR-"**表示が点滅します。)

メモリーネームを選択

バンクネームの表示

編集元のM-CHを表示する

※すでにネームが登録されているときはネームを表示、未登録のときはブランク表示となります。
⑥ **[FUNC]**を押しながら**[DIAL]**を回して、1桁目の文字を選びます。
⑦ **[DIAL]**を回して、文字を入れる桁を選びます。

⑧ 前記⑥～⑦を繰り返して、6文字以内でネームを入れます。
⑨ **[MODE SCAN]**を数回押して、**"S.MW**(セレクトメモリーライト)**"**項目を選択します。
⑩ **[V/M S.MW SKIP]**を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと書き込みます。
※ネーム入力後、**[V/M S.MW SKIP]**を短く押しても書き込むことができます。

※ ネームを訂正したいときは、メモリーネームまたはバンクネームを入れなおしてください。
最後に入れたネームが有効となります。

※ バンクネームは、各バンクごとにネームを入れることができ、バンクチャンネルごとにネーム入れることはできません。

● 文字入力一覧表

◆メモリーネームを表示するときは

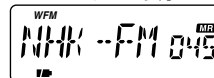
メモリーモードで、[FUNC]を押しながら[BAND LOCK]を押して、「M NAME (メモリーネーム)」表示または「B NAME (バンクネーム)」表示を選択します。

● M-CHの選択

メモリーモードで、[DIAL]を回して選択します。

● バンクの選択

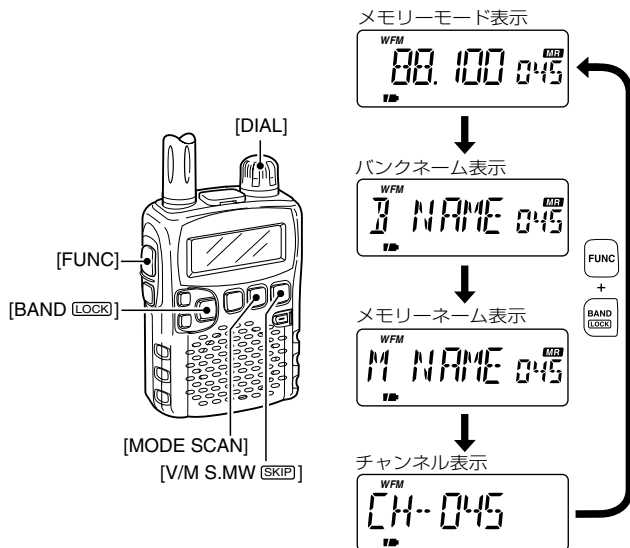
メモリーモードで、[BAND LOCK]を押して選択します。

メモリーネーム表示　　バンクネーム表示

■ メモリー/バンクネームの使いかた (つづき)

◇表示を切り替えるには

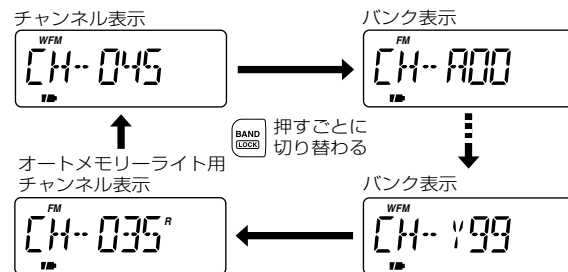
表示機能をいつでも簡単に切り替えて表示できます。

● メモリーモードで、[FUNC]を押しながら[BAND LOCK]を押すごとに、**「メモリーモード** (周波数表示)**」→「B NAME** (バンクネーム)**」→「M NAME** (メモリーネーム)**」→「CH-045** (チャンネル表示)**」**と表示を切り替えます。

※ メモリーネーム表示、バンクネーム表示を選択すると、約1秒後にネームを表示します。
ネームを書き込んでいないときは表示されず、周波数表示になります。

◆チャンネル表示を切り替えるには

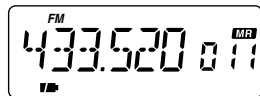
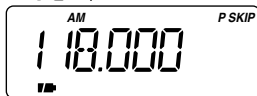
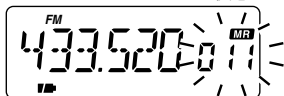
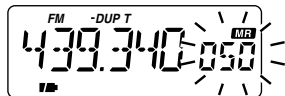
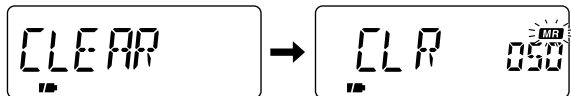
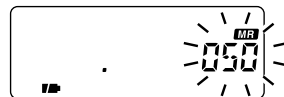
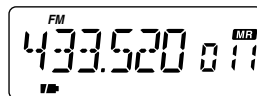
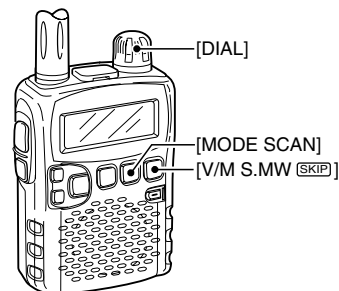
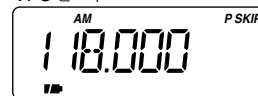
チャンネル表示は、記憶したM-CH、編集したバンクとチャンネル、オートメモリーライト用チャンネルの周波数表示をチャンネル番号で表示します。
書き込んだすべてのM-CH(チャンネル)が使用できます。
スキップチャンネルも表示します。

① メモリーモードで、[FUNC]を押しながら[BAND LOCK]を数回押して、**「チャンネル表示」**にします。(左記参照)

② チャンネル表示状態で、[BAND LOCK]を押すごとに、下記のようにチャンネル表示を切り替えます。
※各チャンネル表示選択時に、[DIAL]を回すとそれぞれに選択しているチャンネルを選択できます。

■メモリークリア(消去)のしかた

不要になったM-CHとPROGRAM-CHを消去します。
いったん消去したM-CHとPROGRAM-CHの内容は、復活できないのでご注意ください。なお、すべてのPROGRAM-CHを消去するとプログラムスキャンができません。

◇ メモリー内容を消去する

① メモリーモードまたはVFOモードを選択して、[V/M S.MW SKIP]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、セレクトメモリーライト状態にします。(M-CH表示部が点滅します。)

② [DIAL]を回して、消去したいM-CHを選びます。

③ [MODE SCAN]を数回押して、“CLEAR”項目を選択します。

④ [V/M S.MW SKIP]を長く(ピッ ピピと鳴るまで)押すと、メモリー内容を消去します。

⑤ 消去後、[V/M S.MW SKIP]を短く押すと、①で選択したときの表示に戻ります。
なお、①で選択したM-CHを消去したときは、ブランク表示になります。

※ TVモード選択時は、メモリークリアの操作はできません。
※ オートメモリーライト用チャンネルのクリア操作は42ページを参照してください。

6 スキャンのしかた

■スキャンについて

スキャンとは、周波数やメモリーチャンネル(M-CH)を自動的に切り替えて、信号の出ているところを探し出す機能です。

◇ VFOモードで行うスキャン

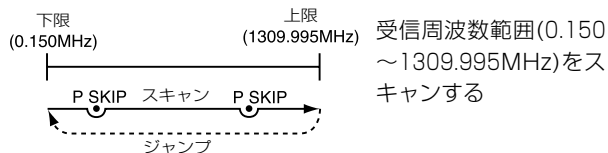
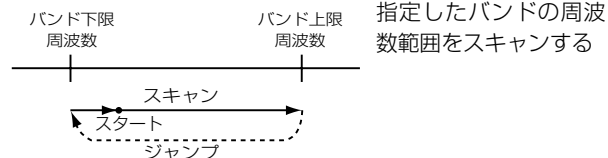
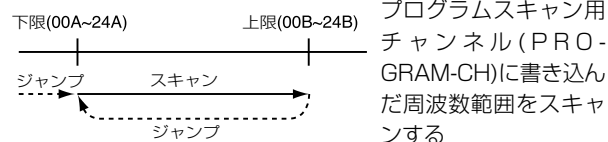
● **ALL(フル)スキャンの動作(☞P40)**

受信周波数範囲(0.150〜1309.995MHz)をスキャンする

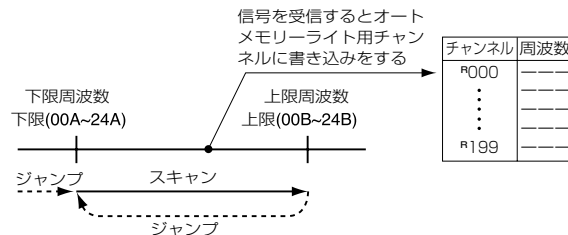
● **バンドスキャンの動作(☞P40)**

指定したバンドの周波数範囲をスキャンする

● **プログラムスキャンの動作(☞P40)**

プログラムスキャン用チャンネル(PRO-GRAM-CH)に書き込んだ周波数範囲をスキャンする

※ なお、**“P SKIP”**が指定された周波数は、スキップしてスキャンします。(☞P42)

◇ VFOモードで行うスキャン

● **オートメモリーライトスキャンの動作(☞P41)**

スキャン中に信号を受信すると、その周波数をオートメモリーライト用チャンネル(R000〜R199)へ自動的に順次書き込む

◇ メモリーモードで行うスキャン

◆ **M-CH表示選択時(☞P43)**

周波数が書き込まれている、すべてのM-CHをスキャンします。

◆ **バンクチャンネル表示選択時(☞P43)**

● 「ALL」 ：メモリーバンク表示選択時は、すべてのバンクに編集されたチャンネルをスキャンします。

● 「BANK」：指定したバンク内のチャンネルをスキャンします。

※ なお、**“P SKIP”または“SKIP”**スキップが指定されたM-CHはスキップしてスキャンします。

◆スケルチの調整

通常スケルチレベルは“AUTO”にしていますが､受信信号の強さに応じて、スキャンが一時停止するように調整できます。

- [SQL]を押しながら[DIAL]を回すと、スケルチレベルの調整ができます。(☞P16)
  スキャン動作中では、スケルチ調整が終わるとスキャンが再スタートします。

◆スキャン中の[DIAL]ツマミについて

- スキャン中に[DIAL]を回すと、回した方向でアップスキャンとダウンスキャンを切り替えます。
- 信号を受信してスキャンを一時停止しているときに、[DIAL]を回すと即時再スタートします。

◆スキャン中のステップと受信モード(電波型式)について

スキャン中に周波数を切り替えるステップ幅は、VFOモードで設定しているチューニングステップ(☞P24)で動作します。
また、受信モードもVFOモードで設定している電波型式で動作します。

◆スキャンストップ時のビープ音設定

スキャンがストップしたときに、ビープ音を鳴らして知らせるように、EXPAND(拡張機能)SETモードの**「スキャン停止時ビープ音の設定」**項目(☞P55)で設定することができます。

◆スキップ機能について

すべてのスキャンでスキップ(必要のない周波数またはM-CHをスキャンから除外する)指定ができます。
スキップの設定については42ページを参照してください。

◆空線キャンセラー機能について

鉄道無線で通話を行っていない周波数で聞こえる2280Hzの空線信号を検出することができます。

- [DIAL]操作時に、空線信号を受信すると受信音をミュートします。
- スキャン中に、空線信号を検出するとスキャンを再スタートします。
  空線キャンセラーの設定については39ページを参照してください。

◆MSK機能について

MCA無線で聞こえるMSK制御信号を検出することができます。

- [DIAL]操作時に、MSK制御信号を受信すると受信音をミュートします。
- スキャン中に、MSK制御信号を検出するとスキャンを再スタートします。
  MSK機能の設定については39ページを参照してください。

◆信号を受信すると

スキャン中に信号を受信すると、その周波数を約10秒(初期設定)間受信します。

- 約10秒経過すると、自動的に再スタートします。
  また、途中で信号がなくなると、約2秒(初期設定)後に再スタートします。
- 上記のタイマーは、SETモードの**「スキャン一時停止タイマーの設定」**項目(☞P55)、**「スキャン再スタートタイマーの設定」**項目(☞P55)で変更することができます。

■ スキャンについて (つづき)

◇ 空線キャンセラー機能を設定する

空線キャンセラー機能は、スキャン中に信号を受信すると一時停止して、空線信号を検出するとスキャンを再スタートします。

空線キャンセラー機能は、SETモードで設定します。

① [TS SET]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、SETモードにします。
(設定項目を約1秒間表示後、設定内容の表示に変わります。)

② [DIAL]を回して、**「EXPAND(機能拡張)の設定」**項目を選択します。

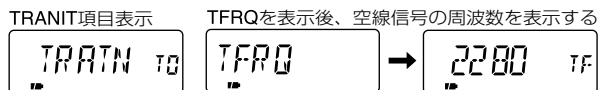
③ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、**“ON”**を選択します。

④ [DIAL]を回して、**「TSQL(トーンスケルチ機能の設定)」**項目を選択します。

⑤ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、**「TRAIN」**を選択します。

⑥ [DIAL]を回すと、**「TFRQ(空線信号周波数)の設定」**項目を表示して、約1秒後に空線信号の周波数(2280Hz)を表示します。

TRANIT項目表示　　TFRQを表示後、空線信号の周波数を表示する

TRAIN TO　　TFRQ ➡ 2280 TF

※ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回すと、空線信号の周波数を可変することができます。(可変範囲：300～3000Hz)

⑦ [TS SET]を短く押すと、SETモードを解除して空線キャンセラー機能による受信状態になります。

空線キャンセラー機能による受信状態

◇ MSK機能を設定する

MSK機能は、スキャン中に信号を受信すると一時停止して、MSK制御信号を検出するとスキャンを再スタートします。

MSK機能は、SETモードで設定します。

① [TS SET]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、SETモードにします。
(設定項目を約1秒間表示後、設定内容の表示に変わります。)

② [DIAL]を回して、**「EXPAND(機能拡張)の設定」**項目を選択します。

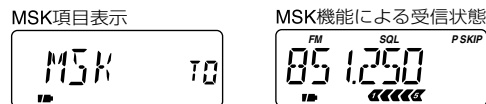
③ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、**“ON”**を選択します。

④ [DIAL]を回して、**「TSQL(トーンスケルチ機能の設定)」**項目を選択します。

⑤ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、**「MSK」**を選択します。

⑥ [TS SET]を短く押すと、SETモードを解除してMSK機能による受信状態になります。

MSK項目表示

MSK機能による受信状態

- 空線キャンセラー機能、MSK機能は受信信号が弱いときや、ノイズが多いときなどは正しく動作しないことがあります。
- 空線キャンセラー機能、MSK機能はすべての空線信号またはMSK信号を検出するものではありません。MSK信号は1200bpsのMSK信号を検出することができます。
周波数がズレた場合などは、検出できない場合もあります。
- 空線キャンセラー機能において、空線信号の周波数(2280Hz)を±50Hz程可変することにより、効果があることがあります。

■VFOスキャンのしかた

◇VFOスキャンの操作

- フルスキャンは、周波数範囲のすべてをスキャンします。
- バンドスキャンは、指定したバンドの周波数範囲内をスキャンします。
- プログラムスキャンは、プログラムスキャン用チャンネル(PROGRAM-CH)の“00A/00B”〜“024A/024B”に記憶している周波数範囲をスキャンします。
- VFOまたはM-CHで“P SKIP”を指定している周波数はスキップしてスキャンします。

◆工場出荷時、PROGRAM-CHに記憶している内容

“00A”：0.150MHz　/“00B”：1300.000MHz
“01A”：144.000MHz　/“01B”：146.000MHz
“02A”：430.000MHz　/“02B”：440.000MHz
※“03A/03B〜024A/024B”は工場出荷時、何も記憶されていません。
PROGRAM-CHへの書き込みについては29ページを参照してください。

◆スタート操作

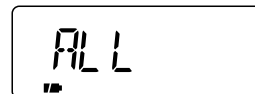
① [V/M S.MW SKIP]を短く押して、VFOモードにします。
※スキップスキャンを選択するときは、[FUNC]を押しながら[V/M S.MW SKIP]を短く押して、“ *P SKIP* ”表示を点灯させます。
再度、同じ操作を行うと“ *P SKIP* ”表示が消灯します。
- P SKIP ：スキップが指定された周波数をスキップします。
- 消灯 ：すべての周波数をスキャンします。

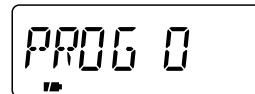
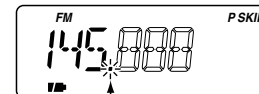
② [MODE SCAN]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
③ [DIAL]を回して、スキャン範囲「ALL」/「BAND」/「PROG 0〜24」を選びます。
- ALL ：フルスキャン動作となります。
- BAND ：バンドスキャン動作となります。
- PROG 0〜24 ：プログラムスキャン動作となります。

④ 選択後、[MODE SCAN]を短く押すと、スキャンを開始します。
※スキャン中に[BAND LOCK]を押して、バンドまたはプログラムスキャン範囲を切り替えることができます。

◆ストップ操作

- [MODE SCAN]を短く押します。

フルスキャンの選択

バンドスキャンの選択

プログラムスキャンの選択

スキャン中の表示

スキャン中は点滅する

◆プログラムスキャン中のステップについて

スキャン中に周波数を切り替えるステップ幅は、VFOモードで設定しているチューニングステップ(☞P24)で動作します。

■オートメモリーライトスキャンのしかた

◆スタート操作

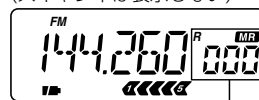
① [V/M S.MW SKIP]を短く押して、VFOモードにします。
② [MODE SCAN]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
③ [DIAL]を回して、スキャン範囲“ALL”/“BAND”/“PROG 0～24”を選びます。
- ALL ：フルスキャン動作となります。
- BAND ：バンドスキャン動作となります。
- PROG 0～24 ：プログラムスキャン動作となります。

④ 選択後、[MODE SCAN]を短く押すと、スキャンを開始します。
⑤ [V/M S.MW SKIP]を短く押すと、“ MR ”表示が点滅して、オートメモリーライトスキャン動作となります。
※すべてのオートメモリーライト用チャンネルが書き込まれている状態では、オートメモリーライトスキャンへの切り替えはできません。
※再度押すと、オートメモリーライトスキャンを解除します。
⑥ 信号を受信すると、5秒間一時停止して、受信した周波数をオートメモリーライト用チャンネルの最下位(R000)に書き込みます。(書き込み時ビープ音が“ピッピッ”と鳴ります。)
書き込みが終わると自動的に再スタートします。
※それ以前に書き込んだオートメモリーライト用チャンネルがあれば、順次上位チャンネルにシフトします。
※すべてのオートメモリーライト用チャンネル(200CH)を書き込んだときは、ビープ音を“ピー”と鳴らしてスキャンを解除します。
※スキャン中に[BAND LOCK]を押して、バンドまたはプログラムスキャン範囲を切り替えることができます。

※VFOスキャン中に信号を受信するたびに、その周波数をオートメモリーライト用チャンネル(R000～R199)へ自動的に順次書き込みます。

信号を受信してスキャンが一時停止する

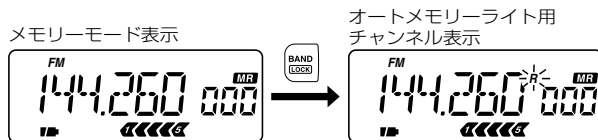
一時停止が約5秒間続くとビープ音がなり、オートメモリーライト用チャンネルに書き込みスキャンが再スタートする

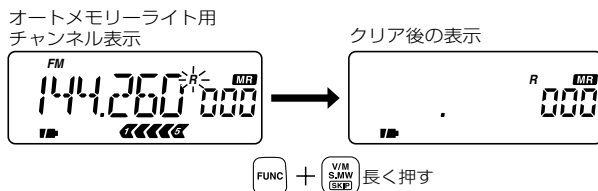
書き込み後の表示
(スキャン中は表示しない)

オートメモリーライト用チャンネル

◆ストップ操作

- [MODE SCAN]を短く押します。

◆オートメモリーライト用チャンネルの呼び出し

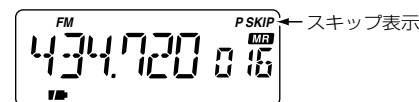
① [V/M S.MW SKIP]を短く押して、メモリーモードにします。
② [BAND LOCK]を押して、オートメモリーライト用チャンネル表示を選択します。("R"表示が点灯します。)
③ [DIAL]を回して、オートメモリーライト用チャンネルを選択します。

◆オートメモリーライト用チャンネルのクリア操作

① [V/M S.MW SKIP]を短く押して、メモリーモードにします。
② [BAND LOCK]を押して、オートメモリーライト用チャンネル表示を選択します。("R"表示が点灯します。)
③ [FUNC]を押しながら[V/M S.MW SKIP]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと、すべてのオートメモリーライト用チャンネルをクリアします。なお、1CHごとのクリアは出来ません。

◇スキップチャンネルの指定と解除のしかた

メモリースキャン時に、スキャンの対象からはずしたいチャンネルを、飛び越す(スキップ)ように指定する機能です。

① [V/M S.MW SKIP]を短く押して、メモリーモードにします。
② [BAND LOCK]を押して、メモリーモード表示を選択します。
③ [DIAL]を回して、スキップを指定するCHの選択、またはスキップを解除するCHを選択します。
④ [FUNC]を押しながら[V/M S.MW SKIP]を短く押すごとに、"*SKIP*"→"*P SKIP*"→"消灯"(解除)と表示が切り替わります。
  ● SKIP/P SKIP点灯：メモリースキャン時、指定したM-CHをスキップします。
  ※なお、M-CHに"*P SKIP*"を指定すると、VFOスキャン時、その周波数をスキップします。
  ※メモリースキャン時、信号を受信してスキャンが一時停止したときに、そのM-CHをメモリースキャンの対象からはずしたい場合は、[FUNC]を押しながら[V/M S.MW SKIP]を短く押して、スキップを指定することもできます。

◆スキップチャンネルの解除

上記を操作して、"*SKIP*"または"*P SKIP*"表示を消灯させてください。

■メモリースキャンのしかた

メモリースキャンは、周波数を記憶しているM-CHを順次切り替えて、信号を探し出すスキャンです。

メモリースキャンは**「メモリースキャン」**、**「メモリーバンクスキャン」**があります。
スキップチャンネルに指定したM-CH(SKIPまたはP SKIP表示が点灯)は、スキャンスタート操作をしたときに、そのM-CHを飛び越えてスキャンします。
※ PROGRAM-CHはスキャンしません。

◇ メモリースキャンの操作

◆スタート操作

① [V/M S.MW SKIP]を短く押して、メモリーモードにします。
② [BAND LOCK]を押して、メモリーモード表示を選択します。
③ [MODE SCAN]を長く(ピッ、ピピと鳴るまで)押すと、メモリースキャンを開始します。

◆ストップ操作

● [V/M S.MW SKIP]を短く押します。

スキャン中の表示

スキャン中は点滅する

■メモリーバンクスキャンのしかた

メモリーバンクのスキャンには、フルバンクスキャンとバンクスキャンがあります。
※ スキップが指定されたチャンネルは飛び越えてスキャンします。
※ 編集したバンクのすべてのチャンネルに“SKIP”が指定されている場合、そのバンクはスキップされます。
※ PROGRAM-CHはスキャンしません。

◇ フルバンクスキャン/バンクスキャンの操作

◆スタート操作

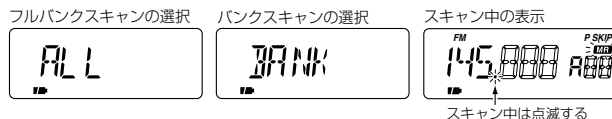
① [V/M S.MW SKIP]を短く押して、メモリーモードにします。
② [BAND LOCK]を押して、バンク表示を選択します。
③ [MODE SCAN]を押しながら[DIAL]を回して、「ALL」または「BANK」を選択します。
- ●ALL　：すべてのバンクとチャンネルをスキャンします。
- ●BANK：指定したバンクのチャンネルをスキャンします。

※なお、バンクスキャン中に[BAND LOCK]を押して、バンクを切り替えることができます。
④ 選択後、[MODE SCAN]を短く押すと、フルバンクスキャンまたはバンクスキャンを開始します。
※指定したバンクの全てに“SKIP”が指定されている場合は、最初のチャンネルでスキャンは停止します。

◆ストップ操作

● [MODE SCAN]を押すと、フルバンクスキャンまたはバンクスキャンを解除します。

フルバンクスキャンの選択　バンクスキャンの選択　スキャン中の表示

スキャン中は点滅する

■ プライオリティスキャンについて

プライオリティスキャンは、通常の受信をしながら特定周波数の信号の有無を知るためのスキャンです。
プライオリティスキャンには、下記の種類があります。

種　　類	動 作 の 内 容
VFO 周波数とメモリーモードで選択した M-CH またはチャンネル	VFO周波数を受信しながら、指定M-CHまたはバンクチャンネル、オートメモリーライト用チャンネルの信号の有無を受信(監視)します。(☞P45)
VFO スキャンとメモリーモードで選択した M-CH またはチャンネル	VFOスキャンをしながら、指定M-CHまたはバンクチャンネル、オートメモリーライト用チャンネルの信号の有無を受信(監視)します。(☞P46)
VFO 周波数とメモリースキャンまたはバンクスキャン	VFO周波数を受信しながら、スキャン中のM-CHまたはバンクチャンネルを順次受信(監視)します。(☞P47)
VFO スキャンとメモリーまたはバンクスキャン	VFOスキャンをしながらメモリーまたはバンクの両スキャンで信号の有無を受信(監視)します。(☞P48)
TV-CH とメモリーモードで選択した M-CH またはチャンネル	TV-CHを受信しながら、指定M-CHまたはバンクチャンネル、オートメモリーライト用チャンネルの信号の有無を受信(監視)します。(☞P49)

◇ プライオリティベル機能について

プライオリティベル機能とは、プライオリティCHで信号を受信したとき、**“ピロピロピ”**というベル音を鳴らして、ベルマーク“((•))”が点滅します。

① **[TS SET]**を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、SETモードにします。(設定項目を表示します。)
② **[DIAL]**を回して、**“PRIO”**項目を選択します。

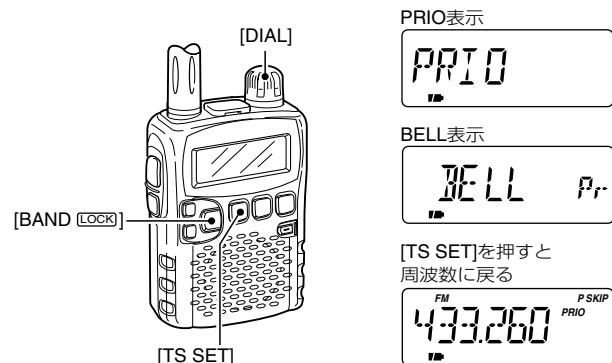
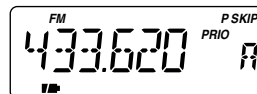
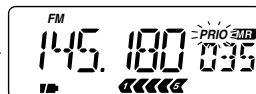
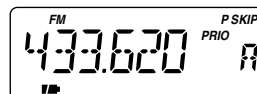
③ **[FUNC]**を押しながら**[DIAL]**を回して、**“BELL”**を選択します。

※続けてSETモードを設定するときは、**[DIAL]**を回します。(設定項目を表示します。)
その後、③を操作して、設定内容を選択します。

④ 選択後、**[TS SET]**を短く押します。
プライオリティスキャンを開始します。

■VFO周波数を受信中にM-CHを受信する

VFO周波数を聞きながら5秒に1回、特定のM-CHまたはバンクチャンネル、オートメモリーライト用チャンネルを瞬時受信します。

① VFOモードで受信する周波数を設定します。
② メモリーモードで受信したいM-CHを設定します。
　※[BAND LOCK]を押して、メモリーモード表示またはバンク表示、オートメモリーライト用チャンネル表示を選択します。
　次に[DIAL]を回して、M-CHまたはバンクチャンネル、オートメモリーライト用チャンネルを選択します。
　※①と②の操作はどちらが先でもかまいません。
③ [TS SET]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、SETモードにします。(設定項目を表示します。)
④ [DIAL]を回して、**"PRIO"**項目を選択します。
⑤ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、**"ON"**か**"BELL"**を選択します。
⑥ 選択後、[TS SET]を押すと"*PRIO* "表示が点灯して、プライオリティスキャンを開始します。
⑦ [TS SET]を短く押すと、プライオリティスキャンを解除します。

※ M-CHとバンクチャンネル以外にオートメモリーライト用チャンネルも選択できます。

■VFOスキャン中にM-CHを受信する

VFOスキャンをしながら5秒に1回、特定のM-CHまたはバンクチャンネル、オートメモリーライト用チャンネルを瞬時受信します。

① メモリーモードで受信したいM-CHを設定します。

※ [BAND LOCK]を押して、メモリーモード表示またはバンク表示、オートメモリーライト用チャンネル表示を選択します。
次に[DIAL]を回して、M-CHまたはバンクチャンネル、オートメモリーライト用チャンネルを選択します。

② VFOモードにします。

③ [MODE SCAN]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、VFOスキャン(フルスキャン、バンドスキャン、プログラムスキャン)をスタートさせます。

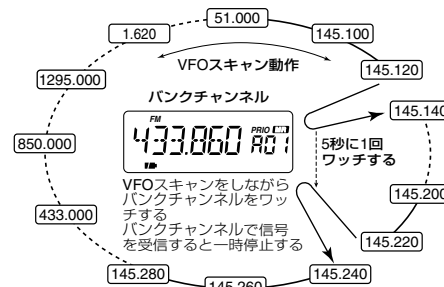
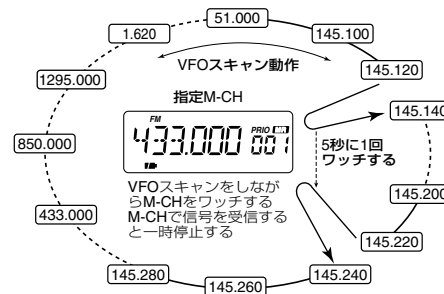
④ [TS SET]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、SETモードにします。(設定項目を表示します。)

⑤ [DIAL]を回して、"PRIO"項目を選択します。

⑥ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、"ON"か"BELL"を選択します。

⑦ 選択後、[TS SET]を押すと"*PRIO* "表示が点灯して、プライオリティスキャンを開始します。

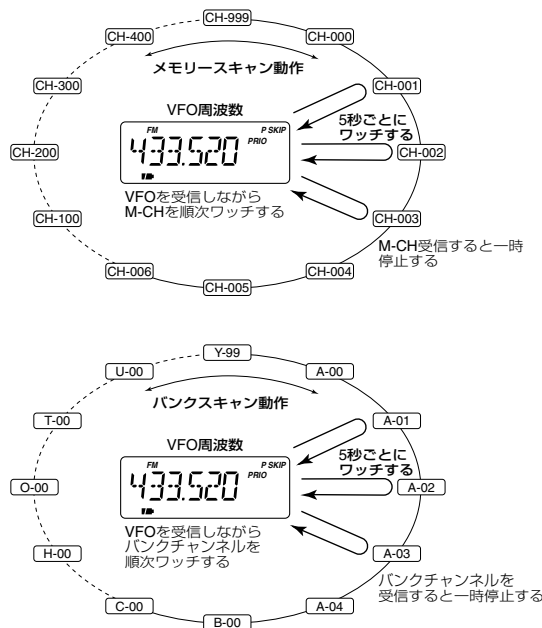
⑧ [TS SET]を短く押すと、プライオリティスキャンとVFOスキャンを解除します。

◎ 動作の概略

※ M-CHとバンクチャンネル以外にオートメモリーライト用チャンネルも選択できます。

■VFO周波数を受信中にM-CHを順次受信する

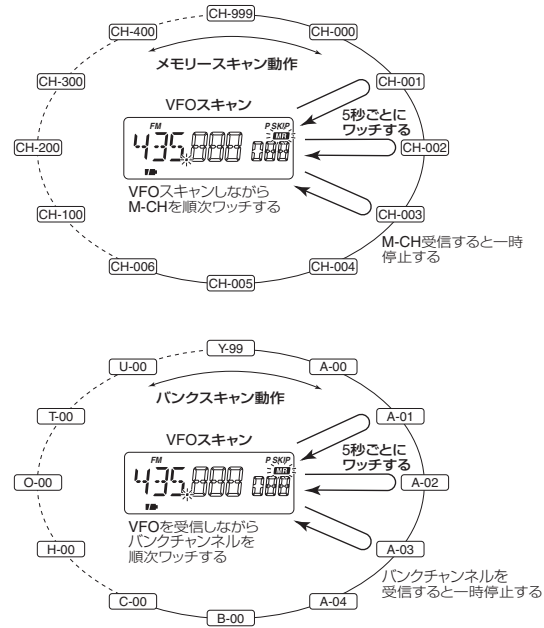
VFO周波数を受信しながら、5秒に1回特定のM-CHまたはバンクチャンネルを順次切り替えて受信します。

① VFOモードで受信する周波数を設定します。
② メモリーモードにします。
※ [BAND LOCK]を押して、メモリーモード表示またはバンク表示を選択します。
③ [MODE SCAN]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、選択した表示のメモリースキャンをスタートさせます。
④ [TS SET]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、SETモードにします。(設定項目を表示します。)
⑤ [DIAL]を回して、**“PRIO”**項目を選択します。
⑥ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、**“ON”**か**“BELL”**を選択します。
⑦ 選択後、[TS SET]を押すと“*PRIO* ”表示が点灯して、プライオリティスキャンを開始します。
⑧ [TS SET]を短く押すと、プライオリティスキャンを解除します。

◎ **動作の概略**

■VFO/ メモリー両スキャンで受信する

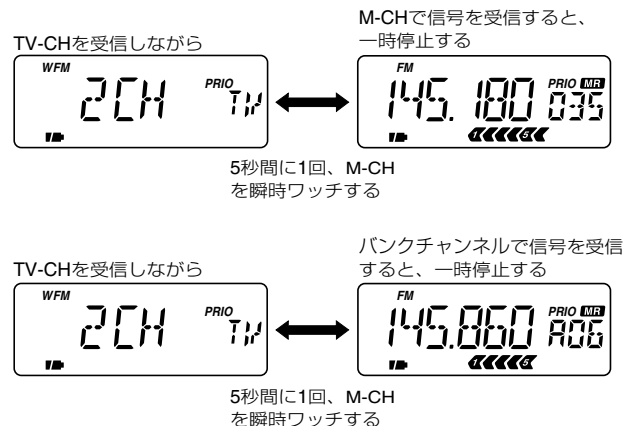
VFO スキャン中に M-CH またはバンクチャンネルを順次スキャンして受信します。

① メモリーモードにします。
　※[BAND LOCK] を押して、メモリーモード表示またはバンク表示を選択します。
② [MODE SCAN] を長く (ピッ、ピーと鳴るまで) 押して、選択した表示のメモリースキャンをスタートさせます。
　[ご注意] 必ずメモリースキャンまたはバンクスキャンを先にスタートさせてください。VFO スキャンを先にスタートさせると、両スキャンは動作しません。
③ [TS SET] を長く (ピッ、ピーと鳴るまで) 押して、SET モードにします。(設定項目を表示します。)
④ [DIAL] を回して、**"PRIO"** 項目を選択します。
⑤ [FUNC] を押しながら [DIAL] を回して、**"ON"** か **"BELL"** を選択します。
⑥ 選択後、[TS SET] を押すと **"PRIO-"** 表示が点灯して、プライオリティスキャンを開始します。
⑦ [MODE SCAN] を押しながら [DIAL] を回して、**"ALL"**、**"BAND"**、**"PROG 0 ～ 24"** のいずれかを選択します。
⑧ 選択後、[MODE SCAN] を押すと **"PRIO-"** 表示が点灯して、両スキャンによるプライオリティになります。
　※VFO/M-CH のどちらで信号を受信しても、一時停止になります。
⑨ [TS SET] を押すと、プライオリティスキャンおよび VFO スキャンとメモリースキャンも解除します。
　※[V/M S.MW SKIP] を押すとオートメモリーライトスキャンとなる。

◎ **動作の概略**

■TV-CHを受信しながらM-CHを受信する

TV-CHを受信しながら5秒に1回、M-CHを受信します。

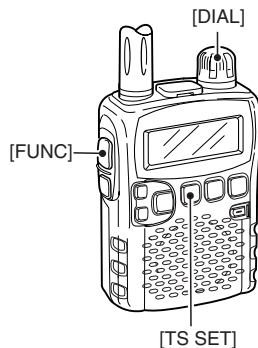
① VFOモードにします。
　※[BAND LOCK]を押して、TV-CHモードにします。
　※次に、[DIAL]を回して、TV-CHを選択します。
② メモリーモードで受信したいM-CHを設定します。
　※[BAND LOCK]を押して、メモリーモード表示またはバンク表示、オートメモリーライト用チャンネル表示を選択します。
　次に[DIAL]を回して、M-CH(バンクチャンネル)を選択します。
　※①と②の操作はどちらが先でもかまいません。
③ [TS SET]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、SETモードにします。(設定項目を表示します。)
④ [DIAL]を回して、“PRIO”項目を選択します。
⑤ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、“ON”か“BELL”を選択します。
⑥ 選択後、[TS SET]を押すと“*PRIO* ”表示が点灯して、プライオリティスキャンを開始します。
⑦ [TS SET]を短く押すと、プライオリティスキャンを解除します。

◎ **動作の概略**

※ M-CHとバンクチャンネル以外にオートメモリーライト用チャンネルも選択できます。

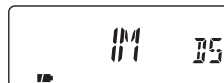
■ SET モードの設定方法

初期設定されている受信条件を、受信する状況やお好みの使いかたに応じて、変更するモードです。

なお、EXPAND(拡張機能)のSETモードにより、さらに多彩な受信条件を設定することができます。

各項目で変更できる受信条件を次のページから記載しておりますので、このページと併せてご覧ください。

SETモードにする

① [TS SET]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。(設定項目を表示します。)
② [DIAL]を回して、設定項目を選択します。表示は約1秒後、設定内容表示に変わります。(以下は“D SEL”の場合)

③ 設定内容が表示されます。

④ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、設定内容を選択します。

※続けてSETモードを設定するときは、②～④を繰り返し操作してください。

⑤ [TS SET]または、[SQL]を短く押します。
周波数表示に戻ります。

EXPAND(拡張機能)の選択

① [TS SET]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
(設定項目を表示します。)
② [DIAL]を回し、「EXPAND」の設定項目を選択します。

③ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、“ON”を選択します。

※ “OFF”を選択するとEXPAND(拡張機能)SETモードの項目は表示されません。

④ [DIAL]を回して、拡張設定項目を選択します。
⑤ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、設定内容を選択します。
⑥ [TS SET]または、[SQL]を短く押します。
周波数表示に戻ります。

■ 設定項目の一覧表

初期設定されている受信条件を、受信する状況やお好みの使いかたに応じて、変更するためのモードです。

◇ SETモード項目

SETガイド	S E T 項 目	
D SEL	ダイヤルセレクトの設定	(☞P52)
PRIO	プライオリティスキャンの設定	(☞P52)
BEEP	ビープ音(操作音)の設定	(☞P52)
BEEPLV	ビープ(操作音)レベルの設定	(☞P52)
LIGHT	ディスプレイのバックライトの設定	(☞P53)
P SAVE	パワーセーブ機能の設定	(☞P53)
ANT※	アンテナ切り替えの設定	(☞P53)
EXPAND	拡張機能のON/OFFの設定	(☞P54)

※ アンテナ切り替えの設定は、BC(1M)バンドでAMラジオ放送の周波数帯(0.495〜1.620MHz)、FM放送(76M)バンドでFMラジオ放送の周波数帯(76.000〜107.995MHz)を表示している状態で、SETモードにしたとき表示されます。

◇ EXPAND SETモード項目

SETガイド	S E T 項 目	
LOCK	キーロック機能の設定	(☞P54)
SPEED	ダイヤルスピード機能の設定	(☞P54)
MONI	モニター(SQL)ホールド機能の設定	(☞P54)
AP OFF	オートパワーオフ機能の設定	(☞P55)
PAUSE	スキャン一時停止タイマー設定	(☞P55)
RESUME	スキャン再スタートタイマーの設定	(☞P55)
STOP B	スキャン停止時ビープ音の設定	(☞P55)
OFFSET	オフセット周波数の設定	(☞P56)
DUP	デュプレックスモード設定	(☞P56)
TSQL	トーンスケルチ受信モードの設定	(☞P57)
TFRQ※	空線信号の周波数設定	(☞P57)
TONE	CTCSSトーン周波数の設定	(☞P57)
CODE	DTCSコードの設定	(☞P58)
DTCS P	DTCS位相反転の設定	(☞P58)
CONT	ディスプレイのコントラストの設定	(☞P58)

※空線信号の周波数設定は、**「トーンスケルチ受信モードの設定」**で**“TRAIN”**を選択した時のみ設定できます。

■ 設定項目の詳細について

設定表示例の上側が初期設定値です。

1. ダイヤルセレクトの設定　D SEL

周波数を大きく変える操作で、[FUNC]を押しながら [DIAL]を回したときの、周波数ステップを選択する項目です。

- 100K　：100KHzステップにします。
- 1M　：1MHzステップにします。
- 10M　：10MHzステップにします。
  (初期設定：1M)

2. プライオリティスキャンの設定　PRIO

プライオリティスキャンの“ON/OFF”およびプライオリティベルを選択する項目です。

- OFF　：動作しません。(初期設定)
- ON　：プライオリティスキャンをします。
- BELL　：プライオリティチャンネルで信号を受信すると、ベル音を鳴らし、ベルマーク“((•))”表示の点滅で受信を知らせます。

3. ビープ音 (操作音) の設定　BEEP

キー操作が正しく行われたかどうかを知らせるビープ音を設定する項目です。

- ON　：ビープ音を鳴らします。
- OFF　：鳴りません。
  (初期設定： ON)

4. ビープ音 (操作音) レベルの設定　BEEPLV

キー操作が正しく行われたかどうかを知らせるビープ音の音量を設定する項目です。前項目**「3.ビープ音(操作音)の設定」**が“ON”のとき有効です。

- VOLUME　：音量に比例したビープ音を鳴らします。(初期設定)
- - - -　- - -　：音量に関係なく、個別にビープ音の音量を調整します。
  ∫
  000 000　[DIAL]を回して音量を調整します。

VOLUME LV

000 _ _ _ LV

5. ディスプレイのバックライトの設定　LIGHT

キー操作時にディスプレイのバックライトを点灯するか、しないかを設定します。

- ● AUTO：キー操作時に自動点灯します。なお、5秒間操作しない状態が続くと消灯します。(初期設定)
- ● ON：常時点灯します。
- ● OFF：点灯しません。

6. パワーセーブ機能の設定　P SAVE

電池の消耗を防ぐためパワーセーブ機能を**"ON/OFF"**します。

- ● ON：無信号状態が5秒続くと"1:4(125msec:500msec)"の比率でパワーセーブ機能を開始し、さらに無信号の状態が60秒続くと"1:8(125msec: 1sec)"の比率で動作します。
- ● OFF：パワーセーブが動作しません。(初期設定：ON)

7. アンテナ切り替えの設定　ANT

BC(1M)バンドおよび**FM放送(76M)バンド**では、受信用のアンテナを付属の外部アンテナから、内蔵の**バーアンテナ**(BCバンド)または接続されたイヤホンをアンテナとして使用する**イヤホンアンテナ**(FM放送)に切り替えることができます。
イヤホンアンテナは、外部アンテナに加えてイヤホンアンテナも使用できるようにします。

- ● EXT：付属のアンテナで受信します。
- ● BAR：内蔵のBARアンテナで受信します。(※BCバンドのみ)
- ● EAR：イヤホンアンテナで受信します。(※FM放送バンドのみ)(初期設定：EXT)

※ アンテナ切り替えの設定は、BC(1M)バンドでAMラジオ放送の周波数帯(0.495～1.620MHz)、FM放送(76M)バンドでFMラジオ放送の周波数帯(76.000～107.995MHz)を表示している状態で、SETモードにしたとき表示されます。

8. 拡張機能のON/OFFの設定　EXPAND

セットモードの拡張項目を設定するための項目です。

- OFF ：初期項目だけを表示する。
- ON ：初期項目と拡張項目を表示する。
  (初期設定：OFF)

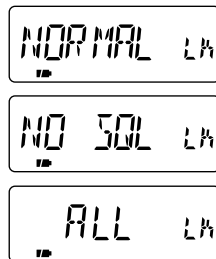
※拡張機能(EXPAND)を**“ON”**にした後の項目は、下記(9項)以降で設定できます。

9. キーロック機能の設定　LOCK

[DIAL]および**キー**の操作を無効にするキーロック機能を設定する項目です。

- NORMAL：音量の[▲]/[▼]、SQLを除くキーをロックします。

- NO SQL ：[SQL]を除くキーをロックします。
- NO VOL ：音量の[▲]/[▼]を除くキーをロックします。

- ALL ：すべての**キー**をロックします。
  (初期設定：NORMAL)

10. ダイヤルスピードの設定　SPEED

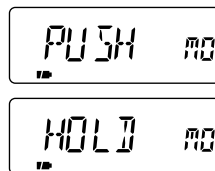
[DIAL]を早く回したときだけ、更にスピードアップするダイヤルスピード機能を選択します。

- ON ：スピードアップします。
- OFF ：[DIAL]を回す速度に合わせます。
  (初期設定：ON)

11. モニター(SQL)ホールド機能の設定　MONI

[SQL]の機能(スケルチを開いて受信をする)が、キーを押している間動作させるか、１回押すごとに**“ON/OFF”**させるかを設定します。

- PUSH ：押している間だけスケルチを開きます。
- HOLD ：１回押すとモニターを**“ON”**にし、もう一度押すことにより**“OFF”**にします。
  (初期設定：PUSH)

PUSH
HOLD

12. オートパワーオフ機能の設定　AP OFF

自動的に電源を“OFF”するオートパワーオフ機能を設定します。キー操作のない状態が一定時間(下記の設定時間)続くと、自動的に電源を切ります。

- OFF　：オートパワーオフ機能が動作しません。(初期設定)
- 30　：30分後に電源を切ります。
- 60　：60分後に電源を切ります。
- 90　：90分後に電源を切ります。
- 120　：120分後に電源を切ります。

※ オートパワーオフで電源が切れた場合に、再度電源を入れたときは、オートパワーオフ機能は有効です。

13. スキャン一時停止タイマーの設定　PAUSE

スキャン中に信号を受信すると、スキャンは一時停止します。設定時間だけ受信を続け、設定時間になると再スタートします。

- 2～20　：2～20秒のタイマー設定が約2秒毎に設定できます。
なお、停止中に信号がなくなると、次項スタートタイマーの条件で再スタートします。
- HOLD　：信号を受信中は一時停止を続け、信号がなくなると再スタートします。
(初期設定：10秒)

14. スキャン再スタートタイマーの設定　RESUME

スキャンが一時停止後、受信信号が途切れてからの再スタートの条件(時間)を設定する項目です。

- 0　：信号がなくなると同時に再スタートします。
- 1～5　：信号がなくなると1～5秒の各設定時間後再スタートします。
- HOLD　：信号がなくなっても一時停止状態を保持します。
(再スタートは[DIAL]操作)
(初期設定：2秒)

15. スキャン停止時ビープ音の設定　STOP B

各種スキャンが停止したときに、ビープ音を鳴らすか、鳴らさないかを設定します。

- OFF　：スキャンが停止しても、ビープ音は鳴りません。
(初期設定)
- ON　：スキャンが停止するとビープ音を鳴らします。

16. オフセット周波数の設定　OFFSET

デュプレックスモードでの、オフセット周波数を設定する項目です。
デュプレックス受信している2局間の周波数差を設定します。

● 0～159.995MHzの範囲で設定できます。

※バンド別に設定が可能です。
※すべてのメモリーチャンネルに独立してオフセット周波数の設定を記憶できます。
※VFOモードで設定しているチューニングステップ(☞P24)で動作します。

17. デュプレックスモードの設定　DUP

送信と受信で異なった周波数を使用するデュプレックスモードで交信中の通信を、受信するための項目です。

● OFF　：デュプレックスを使用しない。
● －DUP：設定周波数とオフセット分低い周波数が受信できます。
● ＋DUP：設定周波数とオフセット分高い周波数が受信できます。
(初期設定：OFF)

18. トーンスケルチ受信モードの設定 TSQL

トーンスケルチ、DTCSコードスケルチ、CTCSS/DTCSポケットビープ、空線信号、MSK制御音などの受信設定をする項目です。

- **OFF**　：トーンを使用しません。
- **TSQL**　：トーンスケルチ受信モードにします。
- **P BEEP**：CTCSSポケットビープ受信モードにします。
- **DTCS**　：DTCSコードスケルチ受信モードにします。
- **P DTCS**：DTCSポケットビープ受信モードにします。
- **TRAIN**　：空線信号をキャンセルする場合に選択します。
- **MSK**　：MCAの制御音をキャンセルする場合に選択します。
　(初期設定：OFF)

19. 空線信号の設定 TFRQ

空線信号の周波数の設定をします。

- **300〜3000**：10Hzステップで設定が可能です。
　(初期設定：2280Hz)

※前項目**「18.トーンスケルチ受信モードの設定」**で**「TRAIN」**が選択されているときに設定が可能となります。

20. CTCSSトーン周波数の設定 TONE

トーンスケルチ通信を受信するための、トーン周波数を設定します。

- **67.0Hz〜254.1Hz**の50波の中から選択します。(初期設定：88.5Hz)

トーン周波数一覧表(単位：Hz)

67.0	88.5	114.8	151.4	177.3	203.5	250.3
69.3	91.5	118.8	156.7	179.9	206.5	254.1
71.9	94.8	123.0	159.8	183.5	210.7	
74.4	97.4	127.3	162.2	186.2	218.1	
77.0	100.0	131.8	165.5	189.9	225.7	
79.7	103.5	136.5	167.9	192.8	229.1	
82.5	107.2	141.3	171.3	196.6	233.6	
85.4	110.9	146.2	173.8	199.5	241.8	

21. DTCSコードの設定 CODE

DTCSコードスケルチ通信を受信するための、DTCSコードを設定します。

- **023～754**の104波の中から選択します。
  (初期設定：023)

DTCSコード一覧表

023	072	152	244	311	412	466	631
025	073	155	245	315	413	503	632
026	074	156	246	325	423	506	654
031	114	162	251	331	431	516	662
032	115	165	252	332	432	523	664
036	116	172	255	343	445	526	703
043	122	174	261	346	446	532	712
047	125	205	263	351	452	546	723
051	131	212	265	356	454	565	731
053	132	223	266	364	455	606	732
054	134	225	271	365	462	612	734
065	143	226	274	371	464	624	743
071	145	243	306	411	465	627	754

22. DTCS位相反転の設定 DTCS P

DTCSコード検出の位相を反転させる設定をします。

- NORMAL：位相反転をしません。
- REV　　：位相反転をします。
  (初期設定：NORMAL)

23. ディスプレイのコントラストの設定 CONT

ディスプレイのコントラストを設定します。

- **1～4**：1(淡)～4(濃)の範囲で設定できます。
  (初期設定：3)

9 各種の交信を受信するために

■デュプレックス通信を受信する

◆デュプレックスとは

デュプレックス通信とは、送信と受信で違った2つの周波数を使用して交信する方式です。
430MHz/1200MHz帯のアマチュア無線用FMレピータシステムや各通信分野で広く利用されています。
本機にデュプレックスモードを設定すると、ワンタッチの切り替え操作で、送信/受信両方の周波数が受信できます。

デュプレックス通信を受信するときは、オフセット周波数の設定も必要です。

◆オフセット周波数とは

デュプレックス通信で、送信周波数と受信周波数の差をオフセット周波数といいます。

デュプレックスモードおよびオフセット周波数は、SETモードで設定します。(☞P56)

〔例〕430MHz帯のレピータ交信を受信するには

レピータとは、山や建物などの障害物で直接交信できない局の交信を可能にしたり、通信範囲(通信距離)を拡大させるための、自動無線中継装置のことです。

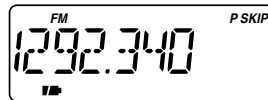
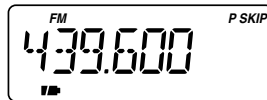
レピータ交信の概略と周波数例

※レピータの周波数帯　送信：439.000～440.000MHz
受信：434.000～435.000MHz

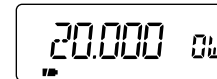
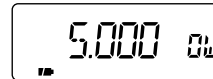
- 通常、アマチュア無線で運用されている430MHz帯のレピータ交信は、オフセット周波数を5.000MHzに設定しています。
  レピータは、送信されてくる434.600MHzを受信すると、自動的に439.600MHzの周波数に変換して送信します。
- 本機で上記通信を受信するには、デュプレックスモードとオフセット周波数5.000MHzの設定が必要です。
  430Mバンドは、レピータ受信用に5.000MHzを初期設定しています。
  (1200Mバンドは、レピータ受信用に20.000MHzを初期設定しています)
  なお、デュプレックスモードは次のように設定します。
  本機の表示(受信)周波数を439.600MHz(レピータの送信周波数)に設定したときは**“－DUPモード”**に、434.600MHz(レピータの受信周波数)に設定したときは**“＋DUPモード”**に設定してください。

◇ レピータの送信周波数を設定する

※ レピータの周波数帯　送信：439.000〜440.000MHz
：1290.000〜1293,000MHz
受信：434.000〜435.000MHz
：1270.000〜1273,000MHz

① [V/M S.MW SKIP]を短く押して、VFOモードにします。
② [BAND LOCK]を押して、430Mバンド(1200Mバンド)を選択します。
③ [DIAL]を回して、.439.600MHz(1292.340MHz)を設定します。

◇ デュプレックスモードとオフセット周波数を設定する

① [TS SET]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、SETモードにします。
(設定項目を約1秒間表示後、設定内容の表示に変わります。)
② [DIAL]を回して、「EXPAND(機能拡張)」項目を選択にします。
③ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、“ON”を選択します。
④ [DIAL]を回して、「DUP(デュプレックス)」項目を選択します。
⑤ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、「－DUP」または「＋DUP」を選択します。

⑥ [DIAL]を回して、「OFF SET」項目にします。
項目を表示後、オフセット周波数を表示します。

※430MHz帯：5.000MHz/1200MHz帯：20.000MHz、その他のバンドは0.000MHzを初期設定しています。
※オフセット周波数を変更するときは、[FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、周波数を設定します。
※VFOモードで設定しているチューニングステップ(☞P24)で動作します。

⑦ [TS SET]を短く押すと、SETモードを解除してデュプレックスモードになります。

■ デュプレックス通信を受信する (つづき)

◇ デュプレックス通信の両周波数を受信する

[SQL]を押します。

- 400Mバンドの場合は押している間、5.000MHz低い434.600MHzを受信します。
- 1200Mバンドの場合は押している間、20.000MHz低い1272.340MHzを受信します。

※ [SQL]を押すと「−DUP」モードのとき、オフセット周波数分低い周波数を受信します。
「+DUP」モードのときは、オフセット周波数分高い周波数を受信します。

■デュプレックスを解除するときは

SETモードにして、“DUP”項目を“OFF”にします。

■トーン通信/DTCSコード通信を受信する

◆トーンスケルチ機能とは

トーンスケルチは、受信した周波数に重畳したトーン周波数が一致したときのみスケルチが開き受信します。
アマチュア無線、簡易業務用無線、特定小電力無線などの通信に利用されています。
通信している周波数およびトーン周波数に自局の設定をあわせると、トーンスケルチ通信が受信できます。

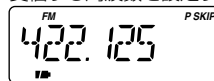
◆ポケットビープ機能とは

上記トーンスケルチ機能で受信したとき、ビープ音で知らせる便利な機能です。
呼び出しを受けると、呼び出し音“ピロピロピロ”が30秒間鳴り続けるとともに、ディスプレイのベルマーク“((•))”表示が点滅します。

◇ 周波数を設定する

① [V/M S.MW SKIP]を短く押して、VFOモードを選択します。
② [BAND LOCK]を押して、バンドを選択します。
※または、[BAND LOCK]を押しながら[DIAL]を回して選択します。
③ [MODE SCAN]を短く押して、受信モード(電波型式)を選択します。
④ [DIAL]を回して、周波数を設定します。

受信する周波数を設定する

FM P SKIP 422.125

◇ 受信モードを設定する

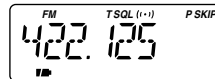
① [TS SET]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、SETモードにします。
(設定項目を約1秒間表示後、設定内容の表示に変わります。)
② [DIAL]を回して、「EXPAND(機能拡張)」項目を選択にします。
③ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、“ON”を選択します。
④ [DIAL]を回して、「TSQL(トーンスケルチ)」項目を選択します。
⑤ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、受信モードを選択します。

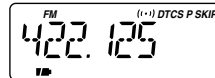
- TSQL　：トーンスケルチ機能が動作します。
- P BEEP：トーンスケルチによるポケットビープ機能が動作します。
- DTCS　：コードスケルチ機能が動作します。
- P DTCS：コードスケルチによるポケットビープ機能が動作します。

トーンスケルチ

FM TSQL P SKIP 422.125

トーンスケルチによるポケットビープ機能

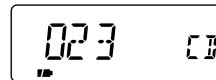
FM TSQL ((•)) P SKIP 422.125

コードスケルチ

コードスケルチによるポケットビープ機能

⑥ [TS SET]を短く押すと、周波数表示に戻します。

◆トーン周波数を設定する

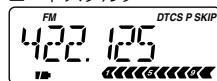
① [TS SET]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、SETモードにします。
(設定項目を約1秒間表示後、設定内容の表示に変わります。)
② [DIAL]を回して、「EXPAND(機能拡張)」項目を選択にします。
③ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、“ON”を選択します。
④ [DIAL]を回して、「TONE(トーン)」項目を選択します。
⑤ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、トーン周波数を選択します。(88.5Hz：初期設定値)
⑥ [TS SET]を短く押すと、周波数表示に戻します。

◆DTCSコードを設定する

① [TS SET]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、SETモードにします。
(設定項目を約1秒間表示後、設定内容の表示に変わります。)
② [DIAL]を回して、「EXPAND(機能拡張)」項目を選択にします。
③ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、“ON”を選択します。
④ [DIAL]を回して、「DTCS(コード)」項目を選択します。
⑤ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、コードを選択します。(023：初期設定値)
⑥ [TS SET]を短く押すと、周波数表示に戻します。

■ トーン通信/DTCSコードの通信を受信する (つづき)

◇ トーン通信/DTCSコード通信を受信すると

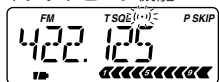
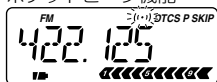
- **トーンスケルチ機能またはDTCSコードスケルチ機能を設定しているときは**

設定しているトーン周波数、またはDTCSコードが同じ電波を受信するとスケルチが開き、通信している局の音声が聞こえます。

トーンスケルチ

コードスケルチ

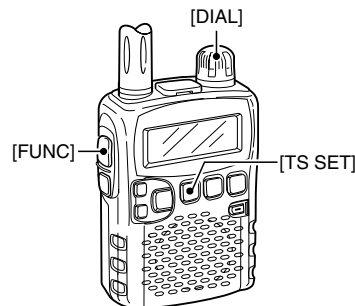
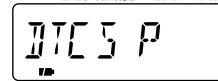
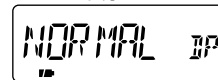
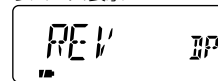
- **ポケットビープ機能を設定しているときは**

受信するとベルが約30秒間鳴り続け、ベルマーク“((•))”表示が点灯します。

トーンスケルチによる
ポケットビープ機能

コードスケルチによる
ポケットビープ機能

■DTCS位相反転機能について

受信する局(送出側)に合わせて、DTCSコードの検出の位相を設定することができます。
DTCS位相反転機能は、SETモードで変更できます。

① [TS SET]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、SETモードにします。
(設定項目を約1秒間表示後、設定内容の表示に変わります。)
② [DIAL]を回して、「EXPAND(機能拡張)」項目を選択します。
③ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、“ON”を選択します。
④ [DIAL]を回して、「DTCS P(DTCS位相反転機能)の設定」項目を選択します。
⑤ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、「NORMAL」または「REV」を選択します。
- NORMAL ：位相反転をしない。
- REV ：位相反転をする

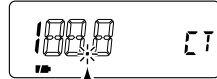
⑥ [TS SET]を短く押すと、SETモードを解除して元の周波数表示に戻ります。

■トーン/コードスキャンのしかた

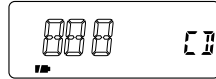
相手局が使用しているトーン周波数またはDTCSコードを検知するスキャンです。

◆スタート操作

① 前記の「◇ 受信モードを設定する」にしたがって、受信モード(トーンスケルチ、コードスケルチ)を設定します。
　※トーンスケルチ、コードスケルチを設定していない場合は、トーンスキャンになります。

② [FUNC]を押しながら[MODE SCAN]を押すと、トーンスキャンまたはDTCSコードスキャンを開始します。

トーンスケルチ設定時の
トーンスキャン中の表示

DTCSコード設定時の
コードスキャン中の表示

スキャン中は点滅する

※ スキャン中に[DIAL]を回すと、回した方向でアップスキャンとダウンスキャンを切り替えます。
スキャン中にスケルチが開いているときはゆっくり、スケルチが閉じているときは速くスキャンします。

※ VFOモード時は、一致したトーン周波数またはDTCSコードを検知すると、スキャンが約10秒間(スキャン一時停止タイマーで設定した時間)一時停止し、トーン周波数またはDTCSコードを自動的に書き替えたあと、スキャンを再スタートします。ただし、M-CHでスキャンを行ったときは、一時的に記憶しますが、書き替えはしません。

※ ポケットビープ状態から、トーンスキャンを行うとポケットビープを解除し、トーンスキャンまたはDTCSコードスキャンになります。

※ 隣接したトーン周波数を使用している局がいると、トーンスケルチが開くことがあります。

◆ストップ操作

[MODE SCAN]を短く押します。

※ 周波数表示に戻ります。

※ トーン周波数を検知(一時停止)する前にストップ操作をしたとき、トーン周波数は書き替わりません。

● **トーン周波数一覧表**　　単位：Hz

67.0	85.4	107.2	136.5	165.5	186.2	210.7	254.1
69.3	88.5	110.9	141.3	167.9	189.9	218.1	
71.9	91.5	114.8	146.2	171.3	192.8	225.7	
74.4	94.8	118.8	151.4	173.8	196.6	229.1	
77.0	97.4	123.0	156.7	177.3	199.5	233.6	
79.7	100.0	127.3	159.8	179.9	203.5	241.8	
82.5	103.5	131.8	162.2	183.5	206.5	250.3	

● **コード一覧表**

023	065	132	205	255	331	413	465	612	731
025	071	134	212	261	332	423	466	624	732
026	072	143	223	263	343	431	503	627	734
031	073	145	225	265	346	432	506	631	743
032	074	152	226	266	351	445	516	632	754
036	114	155	243	271	356	446	523	654	
043	115	156	244	274	364	452	526	662	
047	116	162	245	306	365	454	532	664	
051	122	165	246	311	371	455	546	703	
053	125	172	251	315	411	462	565	712	
054	131	174	252	325	412	464	606	723	

10 その他の便利な機能

■LCDバックライト調整について

ディスプレイの表示を見やすくするために、キー操作をするたびにLCDバックライト(照明)を点灯させています。

※ SETモードの**「ディスプレイのバックライト機能の設定」**項目(☞P53)で、OFF、ON、AUTOの中から設定することができます。

■LCDコントラスト調整について

周囲の明るさに応じて、ディスプレイのコントラスト(明るさ)を調整できます。

※ EXPAND(機能拡張)SETモードの**「ディスプレイのコントラストの設定」**項目(☞P58)で、1(薄い)、2(やや薄い)、3(普通：初期設定値)、4(濃い)の中から設定することができます。

■ビープ音について

キー操作をしたとき、その操作が有効か無効かを、下記のようにビープ音で知らせる機能です。

● **ビープ音の種類**

"ピッ"　：短く押すキー操作が正しいとき
"ピッ、ピー"　：長く押すキー操作が正しいとき
"プッ"　：キー操作が無効のとき
"ピッ ピピ"　：メモリー書き込み操作が正しいとき

※SETモードの**「ビープ(操作音)レベルの設定」**項目(☞P52)でビープレベルの設定、**「ビープ(操作音)の設定」**項目(☞P52)で、ビープ音の**"ON/OFF"**が設定できます。

■ダイヤルスピード機能の使いかた

[DIAL]をゆっくり回しているときは、設定したTS(チューニングステップ)で動作します。
速く回したときに、周波数またはM-CHをダイヤルの速度以上にすばやく切り替える機能です。

※SETモードの**「ダイヤルスピード機能の設定」**項目(☞P54)で、**"ON/OFF"**が設定できます。

■キーロック機能の使いかた

不用意に[DIAL]ツマミやキーに触れても、周波数や受信状態が変わらないようにする機能です。

● [FUNC]を押しながら[BAND LOCK]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと、キーロック機能を“ON/OFF”します。
ロック中は、ディスプレイにロック表示“⊶”が点灯します。

■ EXP 1(拡張機能 1)SETモードの**「キーロック機能の設定」**項目(☞P54)動作条件を設定することができます。

● NORMAL ：[▲]/[▼](音量)、[SQL]を除くキーをロックします。(初期設定)
● NO SQL ：[SQL]を除くキーをロックします。
● NO VOL ：[▲]/[▼](音量)を除くキーをロックします。
● ALL ：[▲]/[▼](音量)、[SQL]を含むキーをロックします。

※ 何れの状態においても、[FUNC]＋[BAND LOCK]、[PWR]キーはロックしません。

ロック表示

■パワーセーブ機能の使いかた

なにも操作しない状態(受信もしない)が一定時間続くと、自動的に本機の動作を休止状態にし、電池の消耗を防ぐ機能です。

◆ SETモードの**「パワーセーブ機能の設定」**項目(☞P53)で、パワーセーブを設定することができます。

● “ON”選択時は、無信号状態が5秒続くと“1：4(125msec：500msec)”、その後も無信号状態が60秒続くと“1：8(125msec：1000msec)”の比率で動作します。
● “OFF”選択時は、パワーセーブが動作しません。

■オートパワーオフ機能の使いかた

このタイマーは、電源の切り忘れをカバーするための機能です。何も操作しない状態が設定したタイマー時間になると、ビープ音(ピー)が5回鳴って電源が切れます。

■ SETモードの**「オートパワーオフ機能の設定」**項目(☞P55)で時間を設定することができます。

● 30/60/90/120分の指定時間がすぎると、電源が自動的に切れます。
タイマーを1回セットすると、電源を入れるたびにタイマーが動作します。

※ 使用しないときは、“OFF”にしておきます。

■工場出荷時の状態に戻す(リセット)には

静電気などによる外部要因で、CPUが誤動作してディスプレイの表示がおかしくなったときは、リセット操作をしてください。

◆オールリセット操作をすると、次のような機能データを工場出荷時の状態に戻します。

● VFOモード、メモリーモード、VFO周波数、バンド、受信モード(電波型式)、チューニングステップ(TS)、メモリーチャンネル(M-CH)、メモリーバンク、TV-CH設定、SETモード、音量設定、スキャンエッジ、スケルチレベルなど

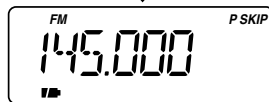
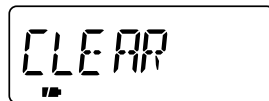
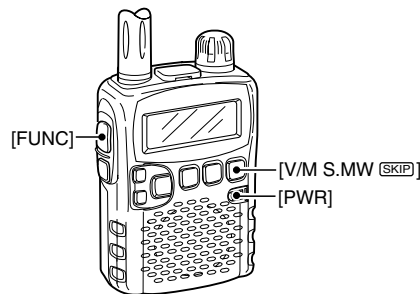
◆パーシャルリセット操作をすると、次のような機能データを工場出荷時の状態に戻します。

● VFOモード、メモリーモード、VFO周波数、バンド、受信モード(電波型式)、SETモード

◇オールリセットのしかた

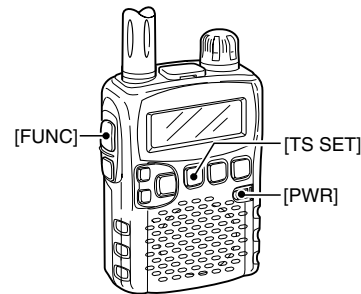
① [PWR]を長く押し、いったん電源を切ります。

② [FUNC]と[V/M S.MW SKIP]を押しながら[PWR]を長く押して、電源を入れます。

● "CLEAR"表示したあと、初期表示になります。

◇パーシャルリセットのしかた

① [PWR]を長く押し、いったん電源を切ります。

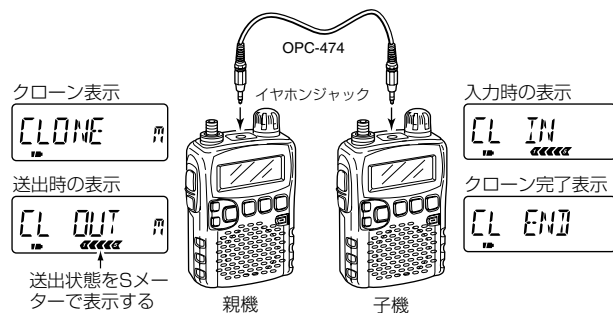
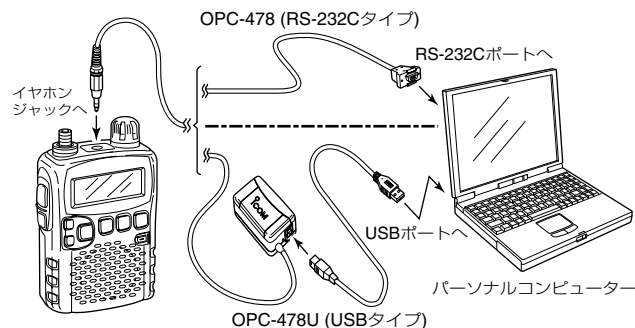
② [FUNC]と[TS SET]を押しながら[PWR]を長く押して、電源を入れます。

● "CLEAR"は表示しません。

■クローニングについて

◆OPC-474クローンケーブルについて

クローンとは、1台のIC-R5に設定したメモリーの内容やSETモードの設定内容を、他のIC-R5に送出して、同じ設定内容にする機能です。

● クローンのしかた

① 下図のようにOPC-474(別売品)で接続します。
② 子機(クローン受信側)の電源を“ON”にします。
③ 親機(送出側)の操作
　[V/M S.MW SKIP]を押しながら[PWR]を押して、電源を入れます。
　“CLONE”と“m”を表示します。
　[SQL]を押します。
　“CL OUT”を表示し、設定内容を送出します。
※ 子機(クローン受信側)が“CL END”を表示して、クローンが完了します。

◎ クローンには左記の本体間クローンの他に、パーソナルコンピューター(PC)でクローンする方法があります。
　PCクローンとしてCS-R5(クローニングソフトウェア：英語版)がありますので、販売店におたずねください。

■故障かな？と思ったら

下表にあげた現象は故障ではありませんので、修理に出す前にもう一度点検してください。
それでも異常があるときは、弊社サポートセンターまで、お問い合わせください。

現　象	原　因	処　置	参照
● 電源が入らない	◎電池の接触不良 ◎電池の極性まちがい ◎ニカド電池またはアルカリ電池の消耗	◉ 電池の端子を清掃する ◉ 極性を確認して、電池を入れなおす ◉ ニカド電池は充電して、アルカリ電池は入れ替える	P6 P5 P8
● スピーカーから音が出ない	◎音量が小さくなっている ◎イヤホンを接続している	◉[▲] を押して、音量を設定しなおす ◉イヤホンのプラグが正常に接続されているか、ケーブルが断線していないかを点検する	P15 P11
● 感度が悪く、強い局しか聞こえない	◎同軸ケーブルの断線またはショート（外部アンテナ使用時） ◎アッテネーターが “ON” になっている	◉ 同軸ケーブルを点検して、正常にする ◉ アッテネーターを “OFF” にする	 P24
● BC バンドの感度が悪い	◎バーアンテナが選択されていない	◉ アンテナを SET モードでバーアンテナに切り替える	P18
● [DIAL] を回すと、音量が変化する	◎反転機能が動作している	◉[FUNC] を押しながら [TS SET] を押して、反転機能を解除する	P26
● [▲]または [▼]を押すと、周波数が変化する	◎反転機能が動作している	◉[FUNC] を押しながら [TS SET] を押して、反転機能を解除する	P26
● 周波数の設定ができない	◎キーロック機能が動作している ◎メモリーモードになっている	◉ キーロック機能を解除する ◉VFO モードにする	P66 P15
● 周波数表示が異常な表示になっている	◎ CPU が誤動作している ◎静電気などによる外部要因	◉ リセットする ◉ 電池を装着しなおすか、外部電源に接続して電源を入れなおす	P67 P5 P6
● プログラムスキャンが動作しない	◎PROGRAM-CHの“＊＊A”と“＊＊B”に同じ周波数が書き込まれている	◉“＊＊A” と “＊＊B” に違う周波数を書き込む	P29
● メモリースキャンが動作しない	◎メモリーモードになっていない ◎M-CHに2CH以上書き込まれていない	◉[V/M S.MW (SKIP)]を押して、メモリーモードにする ◉2CH 以上を M-CH に書き込む	P15 P29

現　　象	原　　因	処　　置	参照
●セットモード中に、設定したい項目にならない	◎ EXPAND を “OFF” にしている	◉[EXPAND] を “ON” にする	P54

■故障のときは

●保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

●修理を依頼されるとき

「故障かな ? と思ったら」(☞P69～70)にしたがって、もう一度、本製品の設定などを調べていただき、それでも異常があるときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にご連絡ください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にご連絡ください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

■ 弊社製品のお問い合わせ先について

●お買い上げいただきました弊社製品の技術サポートなどご不明な点がございましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。

お問い合わせ先：
アイコム株式会社　サポートセンター
0120-156-313(フリーダイヤル)
◆携帯電話・PHS・公衆電話からのご利用は、
06-6792-4949(通話料がかかります)
受付(平日 9:00～17:00)
電子メール：support_center@icom.co.jp
アイコムホームページ：http://www.icom.co.jp/

●弊社製品の故障診断、持ち込み修理などの修理受付窓口は、別紙の「サービス受付窓口一覧」をご覧ください。

12 定　格

■一般仕様

●受信周波数範囲：0.150～252.895MHz
255.100～261.895MHz
266.100～270.895MHz
275.100～379.895MHz
382.100～411.895MHz
415.100～809.895MHz
834.100～859.895MHz
889.100～914.895MHz
960.100～1309.995MHz

●電波型式：AM、FM、WFM

●選択度：
AM、FM	15kHz以上/－9dB
AM、FM	30kHz以下/－60dB
WFM	150kHz以上/－6dB

●使用温度範囲：－10℃～＋60℃

●基準周波数安定度：±6PPM以内(－10℃～＋60℃)

●周波数分解能：5kHz、6.25kHz、8.33kHz*1、9,0kHz*2、10.0kHz、12.5kHz、15.0kHz、20.0kHz、25.0kHz、30.0kHz、50.0kHz、100.0kHz
＊1：AIRバンドのみ選択でき、その他のバンドでは選択できません。
＊2：BC(1M)バンドのみ選択でき、その他のバンドでは選択できません。

●M-CH(メモリーチャンネル)：1250ch
(00A～24B：50CH、オートメモリーライト用チャンネル：200chを含む)

●電源電圧：DC 6.0V ±5% (外部電源ジャック)
外部電源の動作範囲　：5.7V～6.3V
標準バッテリー　　　：3.0V(単三型アルカリ電池×2)
標準バッテリー　　　：2.4V(Ni-cd 単三型×2)

●消費電流：
受信時	170mA typ.
待ち受け時	100mA typ.
パワーセーブ(1：4)時	41mA typ.

●低周波負荷インピーダンス：8Ω

●低周波出力：100mW typ(3.0V 8Ω負荷 10%歪率時)

●接地方式：マイナス接地

●アンテナインピーダンス：50Ω 不平衡 (SMA型)

●外形寸法：58(W)×86(H)×27(D)mm(突起物を除く)

●重量：約185g(本体、アンテナ、乾電池含む)

●受信方式：トリプルスーパーヘテロダイン

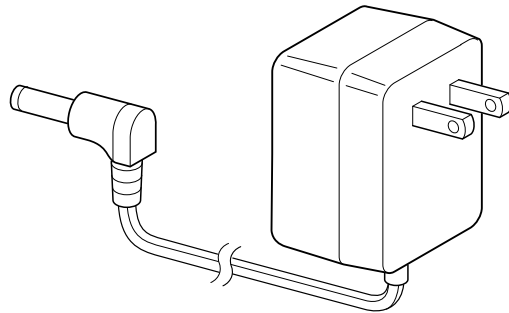
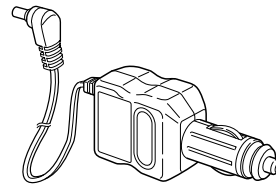
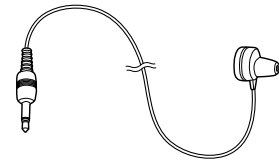
●中間周波数：
1st　；266.700MHz
2nd　；19.650MHz
3rd　；450kHz

●受信感度(スケルチ感度)：

AM 10dB S/N(1kHz 30% MOD)	
0.495～4.995MHz	2dBμ typ.
5.000～29.995MHz	－3dBμ typ.
118.000～136.000MHz	－5dBμ typ.
222.000～246.995MHz	－5dBμ typ.
247.000～329.995MHz	－3dBμ typ.
FM 12dB SINAD(1kHz 3.5kHz DEV)	
1.625～4.995MHz	－10dBμ typ.
5.000～117.995MHz	－14dBμ typ.
118.000～246.995MHz	－15dBμ typ.
247.000～329.995MHz	－14dBμ typ.
330.000～469.995MHz	－15dBμ typ.
470.000～999.995MHz	－11dBμ typ.
1000.000～1309.995MHz	－9dBμ typ.
WFM 12dB SINAD(1kHz 52.5kHz DEV)	
76.000～108.000MHz	－1dBμ typ.
175.000～221.995MHz	－3dBμ typ.
470.000～770.000MHz	0dBμ typ.

※ スプリアスポイントは除きます。

別売品一覧表

BC-149
普及型バッテリーチャージャー(補修用)

CP-18
シガレットライターケーブル

SP-13
イヤホン

LC-146A	ソフトケース
AD-92SMA	SMA→BNC変換コネクター
OPC-474	クローニングケーブル
CS-R5	クローニングソフトウェア(英語版)

切り取り線

ICOM

IC-R5

操作ガイド

■音量の調整
- [▲]/[▼]を押して調整します。(押し続けると連続動作)

■スケルチの調整
- [SQL]を押しながら[DIAL]を回して調整します。

■VFOモードとメモリーモードの切り替え
- [V/M S.MW SKIP]を短く押すごとに、VFOモードとメモリーモードを切り替えます。

■受信バンドの切り替え
① [V/M S.MW SKIP]を短く押して、VFOモードにします。
② [BAND LOCK]を押して、受信バンドを選択します。
または、[BAND LOCK]を押しながら[DIAL]を回して、選択します。
※ 押すごとに「BC(1M)」→「5M」→「50M」→「FM放送(76M)」→「AIR」→「144M」→「300M」→「430M」→「800M」→「1200M」→「TV」→「BC(1M)」と受信バンドが切り替わります。

■周波数の設定
① [V/M S.MW SKIP]を短く押して、VFOモードにします。
② [DIAL]を回して、設定します。

■チューニングステップを変える
① [TS SET]を短く押すと、チューニングステップを表示します。
② [DIAL]を回して、チューニングステップを選択します。

■受信モード(電波型式)の設定
- [MODE SCAN]を短く押すごとに、受信モード(電波型式)が切り替わります。

■キーロック機能の設定
- [FUNC]を押しながら[BAND LOCK]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと、キーロック機能を“ON/OFF”します。

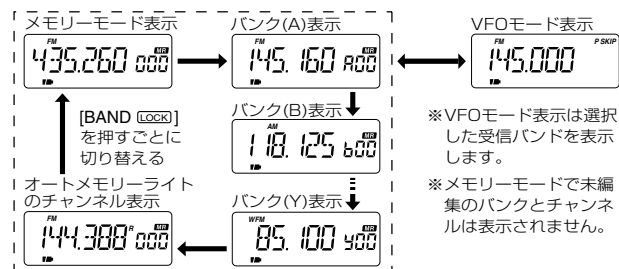
■オールリセットのしかた
① [PWR]を長く押して、いったん電源を切ります。
② [FUNC]と[V/M S.MW SKIP]を押しながら[PWR]を長く押して、電源を入れます。(“CLEAR”表示したあと、初期表示になります。

■パーシャルリセットのしかた
① [PWR]を長く押し、いったん電源を切ります。
② [FUNC]と[TS SET]を押しながら[PWR]を長く押して、電源を入れます。(“CLEAR”は表示しません。)

■メモリーチャンネル(M-CH)の呼び出しかた
① [V/M S.MW SKIP]を短く押して、メモリーモードにします。
② [BAND LOCK]を押して、メモリーモード表示にします。
③ [DIAL]を回します。

■M-CHへの書き込みかた
① [V/M S.MW SKIP]を短く押して、VFOモードにします。
② [BAND LOCK]を短く押して、受信するバンドを選びます。
③ [DIAL]を回して、周波数を設定にします。
④ [V/M S.MW SKIP]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、セレクトメモリーライト状態にします。(M-CH表示部が点滅します。)
⑤ [DIAL]を回して、M-CHを選択します。
※ “VF”を選ぶとVFO、“00A/00B～24A/24B”を選ぶとPROGRAM-CHに書き込めます。
⑥ [V/M S.MW SKIP]を長く(ピッピピと鳴るまで)押すと、メモリー内容を表示してVFOモードに戻ります。

■メモリーモード時の表示切り替えについて
メモリーモード時に[BAND LOCK]を押すごとに、**「メモリーモード」→「バンクA」→「バンク B」～「バンク Y」→「オートメモリーライト用チャンネル」→「メモリーモード」**と表示と切り替えます。
※ または、[BAND LOCK]を押しながら[DIAL]を回します。

- **メモリーモードの表示切り替え**

■メモリー内容を消去する
① メモリーモードまたはVFOモードを選択して、[V/M S.MW SKIP]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、セレクトメモリーライト状態にします。
② [DIAL]を回して、消去したいM-CHを選びます。
③ [MODE SCAN]を数回押して、“CLEAR”項目を選択します。
④ [V/M S.MW SKIP]を長く(ピッ ピピと鳴るまで)押すと、メモリー内容を消去します。
⑤ 消去後、[V/M S.MW SKIP]を短く押します。

■ SETモードの設定
① [TS SET]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。(設定項目を表示します。)
② [DIAL]を回して、設定したい項目を選択します。
表示は約1秒後、設定内容表示に変わります。
③ 設定内容が表示されます。
④ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、設定内容を選択します。
⑤ [TS SET]または、[SQL]を短く押すと、SETモードを解除します。

■ VFOスキャン
① [V/M S.MW SKIP]を短く押して、VFOモードにします。
※ スキップスキャンを選択するときは、[FUNC]を押しながら[V/M S.MW SKIP]を短く押して、" *P SKIP* "表示を点灯させます。
再度、同じ操作を行うと" *P SKIP* "表示が消灯します。
② [MODE SCAN]を押しながら[DIAL]を回して、スキャン範囲"ALL(フルスキャン)"/"BAND(バンドスキャン)"/"PROG 0〜24(プログラムスキャン)"を選びます。
③ 選択後、[MODE SCAN]を短く押すと、スキャンを開始します。
※ スキャン中に[BAND LOCK]を押して、バンドまたはプログラムスキャン範囲を切り替えることができます。
④ [V/M S.MW SKIP]を短く押すと、スキャンを解除します。

■ メモリースキャン
① [V/M S.MW SKIP]を短く押して、メモリーモードにします。
② [BAND LOCK]を押して、メモリーモード表示を選択します。
③ [MODE SCAN]を長く(ピッ、ピピと鳴るまで)押すと、メモリースキャンを開始します。
④ [V/M S.MW SKIP]を短く押すと、スキャンを解除します。

■ メモリーバンクスキャンの操作
① [V/M S.MW SKIP]を短く押して、メモリーモードにします。
② [BAND LOCK]を押して、バンク表示を選択します。
③ [MODE SCAN]を押しながら[DIAL]を回して、「ALL(フルバンクスキャン)」または「BANK(バンクスキャン)」を選択します。
※ なお、バンクスキャン中に[BAND LOCK]を押して、バンクを切り替えることができます。
④ 選択後、[MODE SCAN]を短く押すと、フルバンクスキャンまたはバンクスキャンを開始します。
⑤ [MODE SCAN]を押すと、フルバンクスキャンまたはバンクスキャンを解除します。

■ スキップ機能の設定
※ [FUNC]を押しながら[V/M S.MW SKIP]を短く押すごとに、" *SKIP* "→" *P SKIP* "→"消灯"(解除)と表示が切り替わります。

■ オートメモリーライトスキャン
① [V/M S.MW SKIP]を短く押して、VFOモードにします。
② [MODE SCAN]を押しながら[DIAL]を回して、スキャン範囲"ALL(フルスキャン)"/"BAND(バンドスキャン)"/"PROG 0〜24(プログラムスキャン)"を選びます。
③ 選択後、[MODE SCAN]を短く押すと、スキャンを開始します。
④ [V/M S.MW SKIP]を短く押すと、" *MR* "表示が点滅して、オートメモリーライトスキャン動作となります。
※ すべてのオートメモリーライト用チャンネルが書き込まれている状態では、オートメモリーライトスキャンへの切り替えはできません。
※ 再度、押すとオートメモリーライトスキャンを解除します。
⑤ 信号を受信すると、5秒間一時停止して、受信した周波数をオートメモリーライト用チャンネルの最下位(R000)に書き込みます。
(書き込み時ビープ音が"ピッピッ"と鳴ります。)
書き込みが終わると自動的に再スタートします。
※ それ以前に書き込んだオートメモリーライト用チャンネルがあれば、順次上位チャンネルにシフトします。
※ すべてのオートメモリーライト用チャンネル(200CH)を書き込んだときは、ビープ音を"ピー"と鳴らしてスキャンを解除します。
※ スキャン中に[BAND LOCK]を押して、バンドまたはプログラムスキャン範囲を切り替えることができます。
⑥ [MODE SCAN]を短く押すと、スキャンを解除します。

■ VFOモード時
● [FUNC]を押しながら[DIAL]を回すと、設定している周波数ステップで周波数をアップまたはダウンします。(初期設定値/1MHzステップ)
● [FUNC]を押しながら[TS SET]を短く押すと、[DIAL]と[▲] / [▼]に割り当てている機能を反転します。(反転機能動作時は"*VOL*"表示が点灯します。)
● [FUNC]を押しながら[SQL]を短く押すと、アッテネーター(ATT)機能を"ON/OFF"します。

■ メモリーモード時
● [FUNC]を押しながら[DIAL]を回すと、M-CHを10CHステップでアップまたはダウンします。
● [FUNC]を押しながら[BAND LOCK]を押すと、「メモリーモード」→「B NAME(バンクネーム)」→「M NAME(メモリーネーム)」→「CH--000(チャンネル表示)」と表示を切り替えます。

■ TV(テレビ)モード時
● [FUNC]を押しながら[DIAL]を回すと、すべてのTV-CH(1〜62)を選択します。

■ SETモード時
[FUNC]を押しながら[DIAL]を回すと、SETモードの設定内容を選択します。

高品質がテーマです。

A-6197H-1J-③a
Printed in Japan

この印刷物は環境にやさしい再生紙と植物性インクを使用しています。

アイコム株式会社
547-0003 大阪市平野区加美南1-1-32